

取扱説明書

乗用草刈機

“ラビットモア―”

RM97A



0281-70000



- 取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- 本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。
- 安全性維持のため、別紙点検表に従い年次点検をお受けください。(有料)

株式会社 オーレック

《販売店様へ》

本製品納品の際には納品前点検を行い、お客様から商品受領書をお受け取り後、①メーカー控えを専用封筒にてご返送願います。

目 次

項 目	頁
《はじめに》	1
《本製品の規制について》	1
《保証とサービスについて》	1
《定義とシンボルマークについて》	2
《安全に作業をするために》	2
《機械を他人に貸すときは…》	6
《方向について…》	6
《各部の名称》	7
《各部のはたらき》	8
《上手な運転のしかた》	10
運転前の始業点検 ----- 10	デフロックレバー操作のしかた ----- 15
エンジン始動・停止のしかた ----- 10	走行不能時の移動のしかた ----- 16
走行・変速・停止（駐車）のしかた ----- 13	トラックへの積み卸しのしかた ----- 16
《上手な作業のしかた》	17
草刈り作業のしかた ----- 17	移動用ライトのつかいかた ----- 20
体格に合わせたハンドル・シート調整 --- 20	
《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》	21
ミッションオイルの点検・交換・注油 --- 21	HST オイルの点検・交換・補給 ----- 23
エンジンオイルの点検・交換・注油 ----- 22	各部への注油のしかた ----- 24
オイルフィルタの交換 ----- 22	
《各部の点検・整備・調整のしかた》	24
エアクリーナの清掃のしかた ----- 24	タイヤ空気圧の調整のしかた ----- 26
点火プラグの点検・調整のしかた ----- 25	エンジン冷却系の清掃のしかた ----- 26
燃料パイプの点検のしかた ----- 25	各部ベルト・ワイヤ・ロッド調整のしかた --- 27
	寒冷地での注意 ----- 31
《長期保管のしかた》	31
《ナイフの点検・交換・修正のしかた》	32
ナイフの点検・交換・修正 ----- 32	ナイフの修正 ----- 34
《バッテリー保守・点検のしかた》	35
バッテリー液の補水・補充電 ----- 35	
《仕 様》	38
《工具袋・同梱品明細》	38
《消耗品一覧》	39
《定期自主点検表》	40
《自己診断表》	41
《エンジンの不調とその処理方法》	42
《バッテリーの故障とその処理方法》	43
《電解液による事故時の処理方法》	43
《バッテリー充電時間のめやす》	43

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱い方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。

又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。

尚、品質・性能向上及びその他の事情による部品等の変更で、お手元の製品と本書の内容が一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

《本製品の規制について》

本製品は農業用果樹園の下草刈り又はグラウンドでの雑草刈り機用として開発しておりますので、これ以外の用途〔作業者が特定されないレンタル（賃貸）業又は急斜面等〕では使用しないで下さい。

この草刈機は乗車定員1名です。また道路及び一般交通に供するような場所（農道・林道・公共広場等）では走行出来ません。車両ナンバーを取得することも出来ません。

《保証とサービスについて》

本製品の保証期間は、購入後1ケ年間、又は50使用時間(請負業務用については6ケ月間、もしくは50使用時間)の内どちらか早い時点で到達した方となっております。

ご不審な点及びサービスに関するご質問は、お買い上げ頂いた販売店又は弊社までご相談下さい。その際、『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名』を併せてご連絡下さい。






種類 Description	ロータリモーア(乗用型)
型式名 Model	RM97A
製造番号 Serial No.	NT00000000
発売元	(株)オーレック
株式会社 オーレック MADE IN JAPAN OREC CO., LTD. FABRIQUE AU JAPON	

製品を安全に効率よくご使用し続けて頂くためには定期的な点検・整備が不可欠です。「定期自主点検表」及び「年次点検表」に記載のある定期的な点検・整備を必ず実行しましょう。これらの点検・整備を実行しなかった事及び/又は仕様をこえた使用・改造等に起因する故障・事故については保証の対象外となりますのでご注意下さい。

◎この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。又、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

《定義とシンボルマークについて》

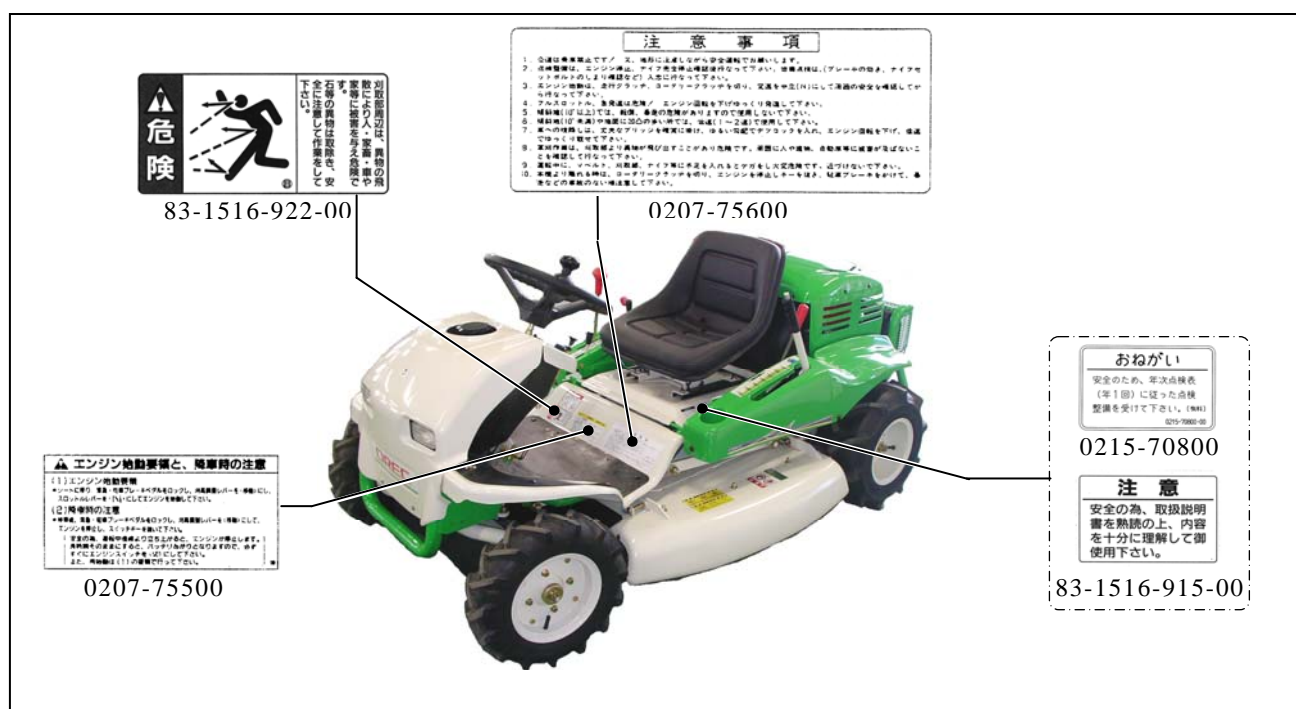
本書では、危険度の高さ(又は事故の大きさ)に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

シンボルマーク	定 義
 危 険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警 告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 注 意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。
参 考；	操作、保守において知っておくと便利な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。

《安全に作業をするために》 …重要危険項目…

(1) 警告表示マーク

- 以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。
- …危険表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常にはっきり識別できるようにしておいて下さい。 〈37 頁…消耗品一覧 参照〉
- …本機はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや 焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。



公道乗車禁止

80-1791-935-00



危険

ナイフ駆付けボルトの頭が露出していると、ナイフの回転により、最大速度になる事があります。ボルト頭の締め具合が弱まると、すぐに交換して下さい。又、ナイフの刃先ファインのゴミまで露出したら、調整し、又は交換して下さい。

0207-78100

危険

手や足を近づけたり踏んだりしないで下さい。高速回転のナイフで手や足に大ケガします。

83-1484-921-00

注意

カバーは開けて作業して下さい。開けると石など異物の飛散が多く周囲へ被害が及び大変危険です。

80-1482-908-00

危険

作業中は目にゴミがはいる事があります。必ず防護眼鏡を使用して下さい。

刈取部より異物が飛散し危険です。人や車、動物等から離れて作業して下さい。

刈刃の調整は危険です。使用前に、刈刃のボルトを締め、ナイフを正しく調整し、古いものは新しいものに切り替えて下さい。

83-1516-918-00

警告	<p>車への乗せ降ろし</p> <p>車への乗せ降ろしの際には転落しないよう、十分に注意して下さい。(16)以下</p>	<p>傾斜地での使用</p> <p>傾斜地での作業は10°以下とし、作業前には境界表示を行い安全運転を心掛けて下さい。</p>	<p>ブレーキ調整</p> <p>刈刃や駐車ブレーキのある物へ必ず使用前に利き具合を点検・調整して下さい。0244-82400-00</p>
	<p>0244-82400-00</p>		

危険

手や足を近づけたり踏んだりしないで下さい。高速回転のナイフで手や足に大ケガします。

83-1484-921-00



注意

このカバーなしの作業は危険です。安全の為、運転時には必ずこのカバーを取り付けて下さい。

83-1516-908-00

(2) 作業前の注意

▲ 本機は道路運送車両法の型式認定を受けておりませんので、公道での走行は絶対にしないで下さい。道路上の走行による事故及び違反につきましては責任を負いかねます。

- ・ 本機は一人乗りです。作業員以外の人や動物等は乗せしないで下さい。
- ・ 本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
- ・ 過労、病気、薬物の影響、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業をさせないで下さい。又、酒気を帯びた人、妊婦、若年者、未熟練者にも作業をさせないで下さい。
- ・ 機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた安全靴や帽子又は、ヘルメット、防護眼鏡等を必ず使用して下さい。
- ・ 作業を開始するときには、周囲に人(特に子供)や動物、車両等がないことを確認し、作業中は半径10m以内にこれらのものを近付けないで下さい。

▲ 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は非常に危険です。事故防止のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。


- ・ 必ず、タイヤ取付けボルトが確実に締まっているか点検し、緩んでいるときはしっかり締めて下さい。

▲ ナイフの脱落は危険です。ナイフのセットボルト・ナットをしっかりと締めて下さい。又、古いものは新しいものに取換えて下さい。

▲ ナイフ交換のための開閉カバーがあるものは、開いたままの使用は危険です。必ず閉めた状態で使用して下さい。

▲ 小石やその他の異物は取り除き、障害物は事前に目印となる物をつけた後で作業を開始して下さい。又、このような圃場では、安全のために通常よりも高刈りで作業を行って下さい。ナイフが欠けたり石等の異物が飛散し危険です。

▲ 排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。

- ・ 転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。
- ・ ナイフクラッチが「」の時、Vベルトが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合にはエンジンを止め、ベルト押え、ワイヤを調整して下さい。

▲ 10°以上の勾配での傾斜地作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が15°を越えると危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用ください。

▲ 安全のため、斜面では一定の速度を保ち、不要な変速レバーの操作は控えて下さい。スリップ・転落・暴走の危険があります。

- ・ 平坦部と傾斜部との境目(路肩)を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全な平坦地を走行して下さい。

▲ 暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できない時には使用しないで下さい。(本機装着のライトは移動用です。夜間の作業には絶対に使用しないで下さい。)



- ・ 安全作業の障害となるような本機の改造は絶対にしないで下さい。これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては、一切の責任を負いかねます。

(3) 燃料給油時の注意

- ・給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下(傾斜地使用の場合には更に少なく)にし、万一多く入れ過ぎたときは、マーク以下になるまで抜き取り、又周辺にこぼれた燃料は必ずふき取って下さい。


▲火傷や火災の危険がありますので、給油はマフラの温度が十分下がってから行って下さい。

(4) 始動時の注意

- ・エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
- ・走行クラッチ、ナイフクラッチを「」位置、駐車ブレーキペダルは「ロック」位置、変速レバーは中立「」位置で始動して下さい。
- ・回りに人や動物や車両等がない事、又周囲の安全を確認してから始動して下さい。

(5) 積み降ろし時の注意

〈16頁…参照〉

- ・平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて確実に駐車をして下さい。
- ・丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、デフロックレバーは「」位置にし、積み込み時は「前進」位置で、降ろす時には「後進」位置でいずれも低速で行って下さい。

(6) 作業中の注意

- ・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。
- ▲**排気マフラ高温となります。本機への乗り降り時等にマフラに手をかけると、火傷を負います。手などを近づけないで下さい。
- ・バックする時は、人や動物等がない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖からの転落等がない様足場に注意して下さい。
- ・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。
- ▲**刈取部からは石等の異物が飛散し、周囲の人や車、建物等に被害が及ぶ恐れがあります。作業中はこれらのものと十分に距離を置き、安全に注意して下さい。
- ▲**回転部分、特にナイフカバー内は危険です。身体を近付けないで下さい。
- ▲**冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃、HSTファンカバーに堆積した草屑の清掃も同時に行ってください。
- ▲**石等、危険物の多い場所ではこれらをできる限り取り除き、障害物のある場所には目印をつけ、安全のため通常よりも高刈りで作業をして下さい。ナイフが欠けたり、石が手前に飛んできたりして危険です。
- ・作業中、石・木株等に当たった時は直ちにエンジンを停止し、ナイフの回転が停止した事を確認した後、ナイフ及びナイフカバーの欠けや曲がりの有無を調べ、必要に応じ修正・交換をして下さい。
- ・刈り取った草は本機右側から後方へ排出されます。障害物に対し常に左旋回をします。

（7）作業終了後の注意

- ・本機から離れる時は必ずエンジンを止めて下さい。キースイッチがある物は、キーを抜いておいて下さい。作業終了後は燃料コックも閉めておいて下さい。

（8）点検・整備時の注意

⚠品質及び性能維持のためには定期点検が不可欠です。始業点検は所有者ご自身で、年次点検は販売店(有料)へご依頼下さい。定期点検を怠ったことによる事故・故障については責任を負いかねますのでご注意下さい。

⚠ベルトやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。破損した場合は使用前に必ず修理しておいて下さい。

- ・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けして下さい。
- ・ナイフセットボルトは安全のためナイフ交換の際には一緒に新品と交換して下さい。

⚠燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。3年毎、又傷んだ時には締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。

- ・点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、エンジンの停止後、マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行って下さい。
- ・ナイフブレーキ、走行（駐車）ブレーキのあるものについては安全のため使用時間が100時間に到達しない時点で交換して下さい。

《機械を他人に貸すときは…》

所有者以外の人には使用させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」も貸してあげて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

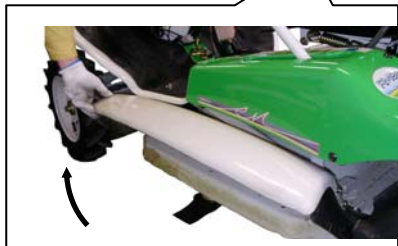
《方向について…》

本機の前後左右は、下図のようにシートに座った作業員から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業員からみた方向で表します。



《各部の名称》





※左側カバーは3ヶ所のボルトを取り外すとフリーとなります。凹凸の多い圃場、草丈が長い圃場ではエンジンにかかる負荷を低減することができる便利な機能ですが、サイドカバーがフリーとなることで増大する危険性（飛散物等の増加）については十分にご留意下さい。

《各部のはたらき》



①エンジンスイッチ

キーを差し込み、エンジンの「始動(START)」、「入(RUN)」、「切(OFF)」を行います。

②スロットルレバー

「」～「」までのエンジン回転数を調整します。

③チョークレバー

エンジン始動時に使用します。引けば「閉」位置、戻せば「開」位置となります。
エンジンが暖まっている場合には操作の必要はありません。

④移動用ライトスイッチ

押して「ON(入、スイッチ点灯)」、再度押して「OFF(切、スイッチ消灯)」となります。

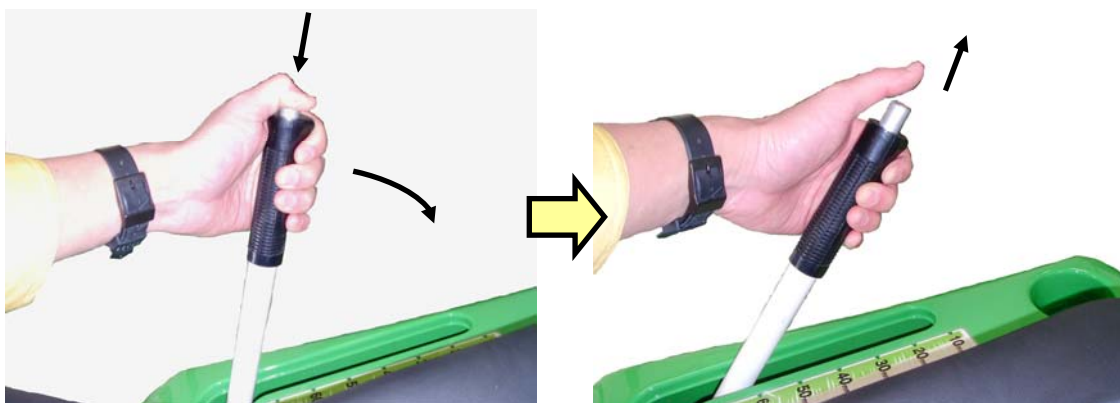
⚠ 警告

このライトは移動用です。作業用としては絶対に使用しないで下さい。周囲の状況が把握できず衝突、転落等の危険があります。またライト点灯時の移動は低速で走行して下さい。

⑤刈高調整レバー（アシスト付無段階刈高）

本製品は、10～80mmの間で任意の刈高さに設定する事が可能です。刈高調整レバー先端にある刈高ロックボタンを親指で押し、そのままお好みの高さに調整後、ロックボタンを離すとその位置で刈高さが固定されます(下図参照)。なお調整時の刈高さの目安としては、レバー右横にある目盛(10～80mm、10mm刻みで表示)を参考下さい。

◇◇「移動」位置以外ではエンジンは始動しません◇◇



※ナイフ回転時と停止時とではナイフ高さは異なります。目盛はナイフ回転時(試験圃場内)の数値です。実際の草刈作業時刈高としてご参考下さい。(※圃場により若干異なります)

⚠ 注意

- ・安全のため、作業圃場に乗り入れるとき、出るとき、また後進時には刈高調整レバーは「移動」位置にして下さい。

⑥ナイフクラッチレバー

ナイフの回転を「入（回転）」、「切（停止）」します。

◇◇刈高調整レバーが「移動」位置ではナイフクラッチレバーの操作はできません◇◇

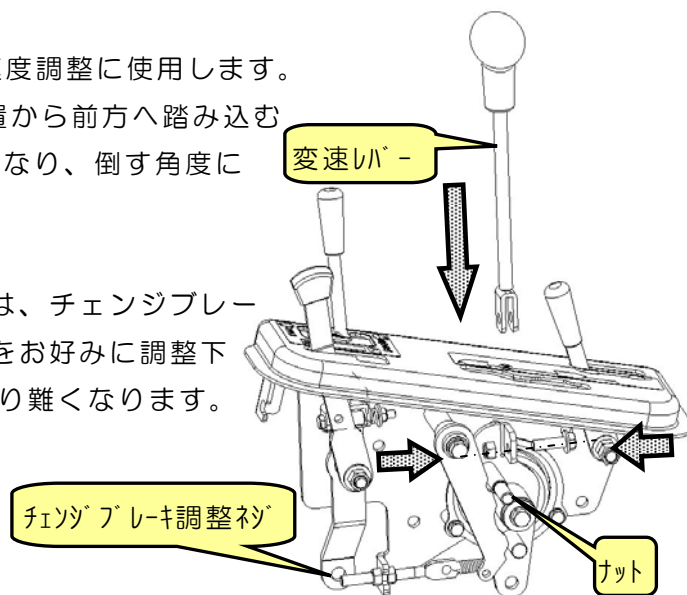
⑦チェンジペダル・変速レバー

本機の走行・停止の操作、走行方向及びその速度調整に使用します。



チェンジペダル(変速レバー)を「中立N」位置から前方へ踏み込むと「前進F」、後方に踏み込むと「後進R」となり、倒す角度によって速度の増減が無段階で調整できます。

参考：

走行中に変速レバーを戻り難くされたい方は、チェンジブレーキ調整ネジ(右図参照)にて、レバーの負荷をお好みに調整下さい。図の左方向(斜線矢印)に調整すると戻り難くなります。



⑧副変速レバー

移動は「高速」位置でも使用できます。「低速」位置は通常の草刈作業、また傾斜地での草刈時等に使用下さい。レバーを各位置まで移動し離します。なお、「中立N」位置ではエンジンをかけずに空押しができます。

▲ 警告

操作は必ず停止した状態で行なって下さい。走行しながらの操作はギヤ抜けによる暴走等の原因となり、大変危険です。又空押しは必ず2名で行なって下さい。

また「高速」側での草刈作業は禁止します。作業は必ず「低速」側で行って下さい。

⑨デフロックレバー

通常は「切」位置で使用して下さい。緩斜面や地面が軟弱な場所での作業時や、後輪の片側がスリップして直進し難い場合、またトラックへの積み降ろしの際等はデフロックレバーを「入」位置にすると後輪の両タイヤは直結となり直進性が増します。但しアスファルト等の地面のグリップ力の高い場所での使用は旋回半径が大きくなり、タイヤの片減り、ミッション破損の原因になります。

⑩駐車ブレーキペダル

緊急時、ペダルを一杯踏み込むと本機は停止し、変速レバーは「中立」位置まで戻ります。通常の停車の操作はチェンジペダル又は変速レバーで行う習慣をつけておいて下さい。ペダルを踏み込んだままストッパでロックすると駐車ブレーキとなります。更に踏み込むとロックは解除します。

◇◇ペダルを踏み込んで（ロックして）いないと、エンジンは始動できません◇◇

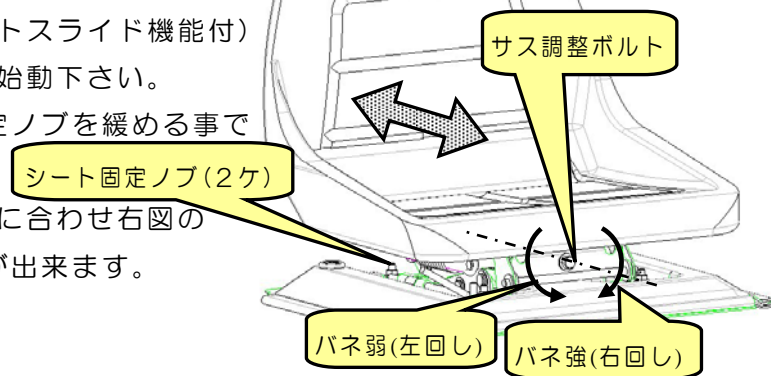
⑪ナイフ交換用サイドカバー

ナイフの点検・交換時に開けて作業をします。それ以外は必ず閉めておいて下さい。

▲ 警告

作業中は必ず閉めて下さい。開けたままの作業は石等の異物の飛散により周囲に甚大な被害を及ぼす事があります。

- ⑫シート（シートサスペンション、ノブ式シートスライド機能付）
 安全のため、必ずシートに座ってエンジンは始動下さい。
 シート位置は作業者の体格に合わせて右図固定ノブを緩める事で
 前後に調整ができます。
 またシートサスペンションは、作業者の体重に合わせて右図の
 「サス調整ボルト」によりバネ力の強弱調整が出来ます。
 右回りで強く、左回りで弱くなります。



- ◇ ◇エンジン始動後、刈高調整レバーが「移動」、駐車ブレーキペダルが「ロック」位置以外でシートから腰を上げると安全のためエンジンは停止します◇◇

《上手な運転のしかた》

運転前の始業点検

安全で快適な作業を行うために「定期自主点検表」〈38頁参照〉に従って始業点検を行い、前日の作業で確認された異常箇所は必ず整備をした後に作業を始めて下さい。

▲ 警告：本機に貼られている注意、危険マークも良く読んで下さい。

エンジン始動・停止のしかた

参考；

- ◇ **必ず**シートに座って始動して下さい。
- ◇ **必ず**駐車ブレーキペダルは踏み込んで(ロックして)始動して下さい。ペダルが踏み込まれた状態にないと安全スイッチが働いてエンジンは始動しません。
- ◇ **必ず**刈高調整レバーは「移動」位置にして下さい。「移動」位置以外では安全スイッチが働いてエンジンは始動しません。

安全のため、エンジン始動の際には以上3つの「必ず」はぜひ守って下さい。

各操作方法を十分に確認の上、エンジンを始動させましょう。

▲ 危険

- ①締め切った室内でエンジンを始動及び暖機運転をしないで下さい。
 … 締め切った室内でエンジンを始動すると …
 有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒をおこす恐れがあります。
- ②ガソリンエンジンを搭載していますので、くわえタバコや裸火照明はガソリンに引火したりして危険です。絶対に行わないで下さい。
- ③エンジンの始動時には、各レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。

▲ 注意

- エンジン始動時には、各レバーの位置と周囲の安全を十分に確認して下さい。

参考；

- エンジンの停止は必ずエンジンスイッチで行って下さい。
 駐車ブレーキを「ロック」し、刈高調整レバーを「移動」位置にすればシートから立ち上がってもエンジンは停止しませんが、これ以外の位置でシートから立ち上がると安全

のためエンジンは停止します。この場合、そのまま放置しておくでバッテリー上がりの原因となりますので、必ず駐車ブレーキ及び刈高調整レバーは始動位置に戻し、エンジンスイッチは「切(OFF)」位置に戻して置いて下さい。

- エンジン始動後は、駐車ブレーキペダル及び刈高調整レバーの位置に関係なくシートに座っていればエンジンは停止しません。
- エンジンオイルの点検はエンジン停止後、エンジンが冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。

■エンジン始動のしかた

①エンジンオイルを確認して下さい。

◎給油栓がオイルゲージを兼用しています。

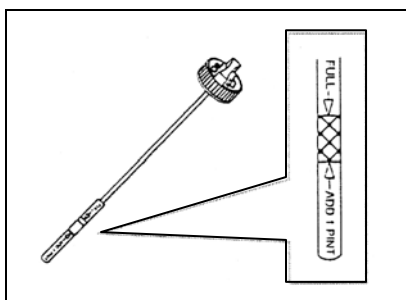
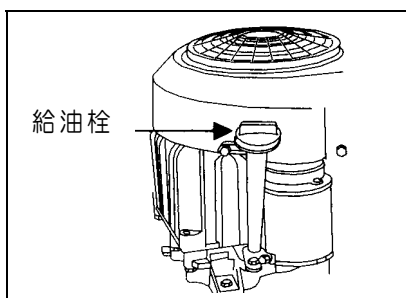
ゲージ部分を布で拭き、再度差し込んで、オイルレベルを確認して下さい。上と下の目盛線の間がオイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい。(オイルは少しずつ消費され減少します)

参考；

エンジンを水平にしプリグスはゲージをねじ込み、カワサキ

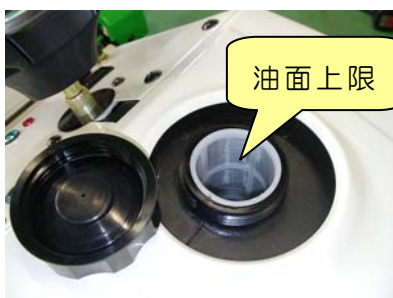
はねじ込まずに、差し込んでオイルを点検して下さい。

- 使用するエンジンオイルは良質で清浄性を有するサービス等級 S F, S G, S H, S J 級以上の高品質なもので「10W-30」オイルを使用して下さい。
- 市販の添加剤は使用しないで下さい。



▲ 警告

- 燃料を入れる時には必ずエンジンを停止させてから行って下さい。
- エンジンとマフラーが冷えた後、入れ過ぎて燃料をこぼさないように注意し、もしこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい。特に傾斜地での使用の場合には給油口内フィルタの規定油面上限以下で使用して下さい。燃料が漏れ出し、火災の危険があります。

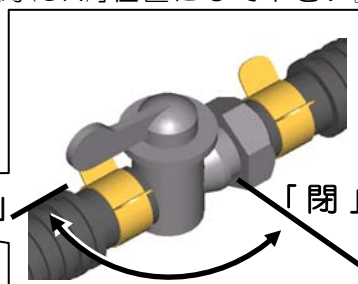


②燃料を確認して下さい。〈燃料タンク全容量は 14L です。〉

燃料は無鉛レギュラーガソリンを入れて下さい。

- 燃料計のゲージが「E」位置に近づいたら早めに燃料を補給して下さい。
- 燃料はフィルタの中間ライン以上は、入れないで下さい。
- 漏れ出た燃料は、タンク表面に添って本機下部へ排出されますが、こぼれた燃料はきれいに拭き取って下さい。
- 燃料補給後は燃料キャップを確実に締め付けて下さい。

③燃料コックを「開(ON)」位置にして下さい。





④シートに座って下さい。

⑤駐車ブレーキペダルを踏み込んで(ロックして)下さい。
チェンジペダルが中立「N」位置以外にある場合には中立「N」位置まで戻ります。

⑥刈高調整レバーを「移動」位置、ナイフクラッチレバーを「切」位置にして下さい。



参考；

ナイフクラッチレバーは刈高調整レバーと連動しています。刈高調整レバーを「移動」位置まで移動させるとナイフクラッチレバーも連動して「切」位置まで戻ります。



⑦変速レバーが中立「N」位置にあることを確認した後、チョークレバーを引いて下さい。

⑧スロットルレバーを「低」と「高」の中間位置にして下さい。



⑨エンジンスイッチにキーを差し込み「入(RUN)」位置から続けて「始動(START)」位置へキーを回すとエンジンが始動します。

⑩エンジンが始動したら直ちにキーから手を離して下さい。
キーは自動的に「入(RUN)」位置まで戻ります。

参考；

- セルモーターは大電流を消費しますので、5秒以上の連続使用は避けて下さい。
- 5秒以内で始動しない場合には、一旦キーを「切(OFF)」位置まで戻し、10秒以上休止してから再度同じ操作を繰り返して下さい。
- エンジン回転中はキーを「始動(RUN)」位置にしないで下さい。セルモーター故障の原因となります。
- エンジンが既に暖機されている場合には、スロットルレバーを「高速」**高**位置で始動して下さい。(チョーク「閉」**N**位置にする必要はありません)



⑪エンジン始動後は、スロットルレバーを**低**位置側へ戻してしばらく(5分程度)暖機運転をして下さい。



⑫チョークレバーを「開」位置まで押して戻し、しばらく暖機運転をして下さい。

参考；

暖機運転を行うことにより、エンジン各部にオイルを行き渡らせ、エンジンの寿命を延ばします。

⚠ 警告

暖機運転中は必ず駐車ブレーキは「ロック(駐車)」しておいて下さい。
急に動き出しケガをする恐れがあります。



■ エンジン停止のしかた

⑬スロットルレバーを手前に引いて「低」位置にして下さい。

⑭キーを「切(OFF)」位置にしてエンジンを停止して下さい。

⑮キーをエンジンスイッチから抜いて下さい。

⑯最後に燃料コックを「閉(OFF)」位置にして下さい。

走行・変速・停止(駐車)のしかた

⚠ 警告

- 安全作業や操作方法についての未熟練者(所有者以外の人)は使用しないで下さい。
- 初めて走行する時は周囲の安全を確認し、周りに障害物のない平坦な場所で行って下さい。

■ 走行運転のしかた

⚠ 注意

変速操作はチェンジペダルでしていただくよう、お願い致します。

①エンジンを始動させて下さい。<11 頁…エンジン始動のしかた参照>

②スロットルレバーを「高速」[高]側へ倒し、エンジンの回転を上げて下さい。

③副変速レバーを「低速」[亀]側、もしくは「高速」[馬]位置に確実に入れて下さい。

<14 頁…副変速のしかた参照>

参考；

通常、移動時は「高速」[馬]位置、作業又はぬかるみからの脱出時等には「低速」[亀]位置とします。





④ 駐車ブレーキを踏み込み「ロック」を解除して下さい。

▲ 注意

駐車ブレーキを「ロック」したままチェンジペダル(変速レバー)の操作は絶対に行わないで下さい。ブレーキがかかった車輪を無理に駆動する事になり、ブレーキ、ミッションに過負荷がかかり、これらの破損につながります。



⑤ チェンジペダル(変速レバー)を ゆっくりと前方(後方)に踏み込んで、本機を前進(後進)させて下さい。

参考；

チェンジペダル(チェンジレバー)を倒す角度によって走行速度が無段階で変化します。チェンジペダルは前進時はつま先、後進時はかかとで操作します。前進と後進の間がニュートラルになります。安全のため、低速側でスタートして下さい。

■ 副変速操作のしかた

- ① チェンジペダルをニュートラル位置に合わせて、走行を一旦停止させてください。
- ② 駐車ブレーキペダルを踏み込む、又は「ロック」して下さい。

参考；

- ・ 緊急の場合には、駐車ブレーキペダルを踏み込むと、走行が停止し、同時にチェンジペダルは中立「N」位置まで戻ります。

- ・ 但し、通常の走行停止操作は、チェンジペダル(変速レバー)で行なう習慣をつけて下さい。
- ・ チェンジペダルは走行時ペダルから足を離したら、ゆっくりと減速し停止します。停止前に障害物など近づいたら、走行方向と逆方向のペダル操作で減速を行ってください。



③ 作業条件に合わせて副変速レバーを「低速」又は「高速」側に確実に入れて下さい。

参考；

副変速レバーの操作は必ず走行を停止した後に行なって下さい。走行しながらの変速操作は危険であるとともに、ミッション系の故障の原因となります。

④ 走行のしかた 14 頁を参照し、再発進させて下さい。

⚠ 警告

副変速レバーの操作は必ず平坦地で行って下さい。傾斜地での操作はギヤ抜けによる滑落等の危険があります。「低⇄**N**⇄高」間のN位置では駆動は切れ、フリーとなります。

■ 停止（駐車）のしかた



① 走行を停止して下さい。〈14頁…副変速のしかた①参照〉

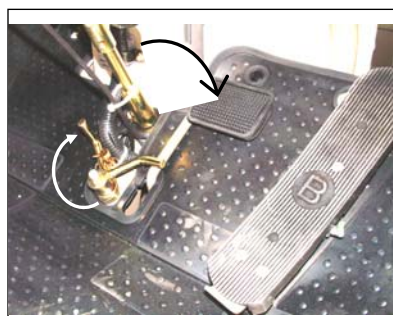
② スロットルレバーを**低**にしてエンジンの回転を落として下さい。

③ エンジンを停止して下さい。

〈13頁…エンジン停止のしかた参照〉

参考：

副変速レバーは「低速🐢」側、もしくは「高速🐇」側に入れたままにしておいて下さい。



④ 駐車ブレーキペダルを踏み込み、ブレーキストップで「ロック」し、駐車をして下さい。

⚠ 注意

本機は平坦で、周辺に障害となる物がない広い場所に駐車して下さい。

デフロックレバー操作のしかた



① 通常は「切」位置にしておいて下さい。

ぬかるみや急な坂でデフロックが必要な場合にのみレバーを「入」位置にして切り欠きに掛け、「ロック」して下さい。

② ぬかるみ等からの脱出後は必ずデフロックレバーは「切」位置に戻しておいて下さい。

⚠ 注意



- デフロックレバーは、本機の積み降ろし時、緩斜面作業時、地盤の軟弱な場所、後輪の片方が空転して直進し難い場合にのみ使用し、その他には使用しないで下さい。
- デフロックを入れたままアスファルトなどグリップ力のある場所（条件のよい場所）で使用すると、旋回時に内側のタイヤをひきずり、旋回半径が大きくなるばかりでなく、タイヤの片減り等、本体各部（特にミッション内部）にも高負荷がかかり、故障の原因となります。

走行不能時の移動のしかた



- ①チェンジペダル(変速レバー)及び副変速レバーを「中立」N位置にして下さい。
- ②駐車ブレーキペダルを「解除」して下さい
- ③刈高調整レバーを「移動」位置にして下さい。
- ④エンジンをかけずに本機の空押しができます。

⚠ 警告

空押しによる本機の移動は、開梱時、屋内での移動、エンジントラブル時等に限って下さい。それ以外は必ず「低速 」側、もしくは「高速 」位置に確実にに入れておいて下さい。

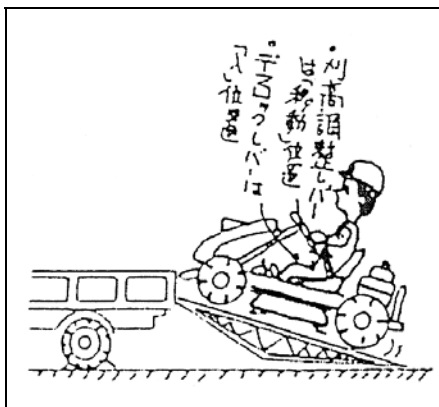
◇「空押し」は必ず2名で行って下さい。傾斜地では急に走り出し大変危険です。



トラックへの積み降ろしのしかた

⚠ 警告

- 運搬に使用する自動車は、荷台に天井のないトラックを使用して下さい。
- トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。
- トラックへの積み降ろしの際には、刈高調整レバーを必ず「移動」位置にして下さい。
積み降ろしの時にナイフがブリッジの溝に絡み転倒する恐れがあります。
- ・トラックは動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて確実に駐車して下さい。
- ・ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう、又外れないように確実に掛けて下さい。
- ・トラックへの積み降ろし時には、デフロックレバーを必ず「入」位置にして左右のタイヤを直結して下さい。
- ・積み降ろし時に、ブリッジ上でデフロックレバーの操作はしないで下さい。転倒の恐れがあります。
- ・本機左右のタイヤがそれぞれブリッジの中央に位置するようにして作業して下さい。
- ・本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。
- ・トラックに積んで移動する時には、駐車ブレーキを掛け、十分に強度のあるロープで本機を確実に固定し、更に荷台の上で動かないよう「車止め」を掛ければさらに安全です。

■ 積み降ろしのしかた



- ①周囲に危険物のない、平坦な場所を選んで下さい。
- ②基準にあったブリッジを使用して下さい。
- ③スロットルレバーは「高」、「低」の中間位置にしてください。
- ④積み込む場合は「前進」、降ろす場合は「後進」位置でどちらも低速で行い、その他の位置には入れないで下さい。

▲ 注意：ブリッジ基準

ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用して下さい。

- 長さ…トラック荷台の高さの3.5倍以上あるもの。軽トラックには7尺を使用下さい。
- 幅…本機の車輪幅にあったもの。
- 強度…本機重量、及び作業者の体重の総和に十分絶え得るもの。
- スリップしないように表面処理が施してあるもの。

《上手な作業のしかた》

草刈作業のしかた

▲ 警告

- 刈草は本機右側のナイフ交換用カバーから吐き出されますが、石塊、針金、空き缶等の異物は刈取部全周より飛散し、周囲に被害を及ぼす恐れがあります。建物の近く又は異物が多い圃場では作業前にこれらを取り除き、高刈りをするか作業範囲内に人（特に子供）、車両等が入り込まないように、草刈り中である旨の立て札やガードロープを張る等して、半径10m以内にこれらのものを近づけないで下さい。
- 圃場内の障害物、側溝、軟弱な路肩、傾斜(限界傾斜角度10°)のあるところ、地面の凸凹等危険な場所には接近しないように注意し、転落や衝突事故を防ぐため、建物、川やガケ、人のいる方向に向かっての作業は行なわないで下さい。
- 傾斜地での作業では、本機の上側（山側）に立つ事は特に危険です。足を滑らせると回転するナイフに巻き込まれ、大怪我をする恐れがあります。
- ナイフにからみ付いた草や針金その他の異物を取り除く際は、必ずエンジンを停止し、ナイフの回転が止まっていることを確認した後にして下さい。

▲ 注意

- ・作業衣は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子又はヘルメット、メガネを必ず着用して下さい。
- ・切り株、石、針金、空カン、棒切れ等の異物は作業前に取り除いて下さい。
- ・約70mm以上の段差乗り越しは必ずブリッジを使用して下さい。高速での段差乗り越し

は、転倒事故や本機故障の原因になります。

- 前輪が穴や溝に落ち込んだ場合は、ハンドルをむやみに回さず、必ずエンジンを停止したうえで本機を持ち上げて脱出して下さい。むやみなハンドル操作は、故障の原因となります。
- 走行中、作業中の切り株、縁石等への前輪衝突は、本機の故障の原因となります。
- 左サイドカバーは通常固定して下さい。刈取負荷が大きい場合に自在(フリー)にするとナイフカバーにかかる負荷を軽減することができますが、その分異物の飛散も頻繁となり危険です。
- **枝下作業時や斜面作業時には、枝との挟まれ・転倒等に細心の注意を払って下さい。**

参考:

- 初めて本機を使用するときは石等の異物のない平坦地を選び、ゆっくりと刈り跡が少し重複するようにまっすぐ刈って下さい。
- 刈取られた草は本機右側から車体後方へ排出されます。障害物の枕刈は、木、柱、塀及び他の障害物を常に本機の左側に位置させて下さい。(左旋回して下さい)



①本機右側のナイフ交換用カバーを一番下まで閉めて下さい。

⚠ 警告

ナイフ交換用カバーを開けたままでの作業は絶対にしないで下さい。刈草と共に石等の異物が飛散し、周囲に危害を及ぼす恐れがあり大変危険です。



②エンジンを始動させて下さい。

<11 頁エンジン始動のしかた参照>

③スロットルレバーを高速^高位置にしてエンジン回転を上げて下さい。

④刈高調整レバーをまず70mm程度の刈高さ位置に調整して下さい。目盛を参考に位置を合わせて下さい。

<刈高さの調整方法は8頁…各部のはたらき参照>



⑤続けてナイフクラッチレバーを「入」位置までゆっくりと倒して下さい。

◇◇ナイフが回転しますので十分に注意して下さい◇◇

◇◇ナイフクラッチを急激に「入」まで入れないで下さい◇◇



⑥希望する刈高さに刈高調整レバーで再度微調整して下さい。

◇◇いきなり低い刈高さ(10mm付近)でナイフクラッチを「入」にすると刈取ベルトの早期破損に繋がります。◇◇

⑦<14 頁…走行運転のしかた>を参照し、本機をスタート、作業を開始して下さい。



⑧作業の終了は上記と逆の操作手順で行って下さい。特にナイフクラッチを戻す時は、まず確実にナイフクラッチを「切」まで戻し、その数秒後に刈高調整レバーを移動の位置まで上げて下さい。

⑨エンジンを停止して下さい。

〈15 頁…停止(駐車)のしかた参照〉

参考：

- 緩斜地での作業は、エンジンのヘッドが常に上(山)側に向くような刈り方をして下さい。ヘッドが下(谷)側を向くような刈り方は、オイル上がりで白煙を吐く場合があります。
- 本機の停止後、刈高調整レバーを「移動」位置まで戻せばナイフクラッチレバーも連動して「切」位置まで戻ります。
- 刈高調整レバーが「移動」位置ではナイフクラッチレバーの操作はできません。
- 通常の停車の操作は変速レバーで行って下さい。緊急時にのみ駐車ブレーキを踏み込んで本機を停止させて下さい。駐車ブレーキを踏み込むと、変速レバーは同時に中立「N」位置まで戻ります。
- 作業終了後、本機から離れる時には必ずエンジンは停止し、キーを必ず抜いて所有者で保管して下さい。

▲ 警告

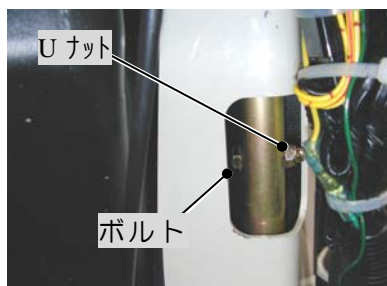
- 作業中、障害物に当たった時はすぐにエンジンを停止し、異常があれば直ちに修理をして下さい。修理しないまま作業を再開するとおぼろげ事故につながります。
- ナイフの回転中は左右両サイドカバー内側一杯までナイフがきまますので、作業中は絶対に草等をナイフカバー内に足等でけり入れないようにして下さい。〈下図参照〉



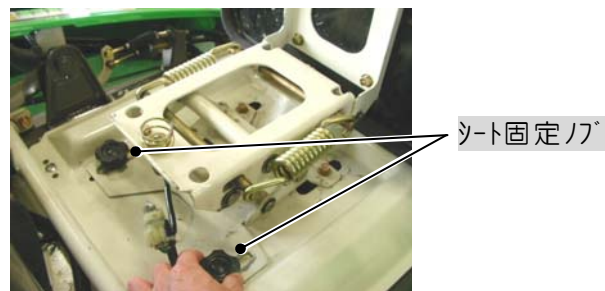
- エンジンに草・木の葉等を堆積させないで下さい。これらの可燃物が堆積すると火災の原因になったり、本機を破損する場合があります。
- ・草の量が多く、頻繁にエンストするようであれば、作業速度を落とすか、刈高さを上げて数回に分けて刈る等して下さい。
- ・草が濡れている時、又は雨天の場合などは本機がスリップしたりして危険です。加えて、刈草がナイフカバー内等に詰まり、エンジンに無理をきたします。このような場合には作業を中断し、草が乾いてから作業を開始して下さい。雨天の作業は非常に危険です。

体格に合わせた各部の調整

使う人の体格によってハンドルは上下4段階、シートは前後にスライドして調整できます。



ハンドルシャフトを固定しているボルトとUナットで調整して下さい。



シート固定ノブ(2ヶ)を緩め、そのままお好みのシート前後位置まで調整し再固定下さい。

移動用ライトのつかいかた



ライトスイッチはハンドル下左側にあります。

押して「ON(入)」、押して「OFF(切)」位置になります。

⚠ 危険

このライトは移動用です。前照灯として利用しないで下さい。周囲の状況が把握しにくい環境では衝突・転落・転倒等、死傷する恐れがあり危険です。

又、薄暮時での移動は特に低速で走行して下さい。

《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》

▲ 注意

- 出荷時本機にオイルは入れてありますが、始めて本機をご使用になる前には、必ず指定の箇所に指定のオイルが指定の量だけ入っているかを確認した後にご使用下さい。
- ・ 定期的なオイルの交換は、本機を常に最良の状態で使用するために是非必要です。
- ・ 各部オイルの点検・交換をする場合には必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを(約5分以上待ってから作業を行って下さい。

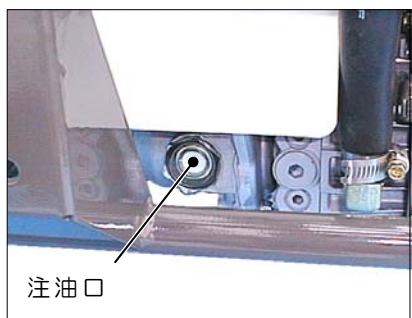
…エンジン停止後、すぐに作業を行うと…

- エンジン本体各部はかなりの高温になっており、やけどの危険があります。
- ・ エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確なオイルが示されません。
- ・ 安全のため作業が終了するまでキーはエンジンスイッチから外しておいて下さい。

■ 交換後の廃油は適切な処理をして下さい。 ■

ミッションオイルの点検・交換・注油

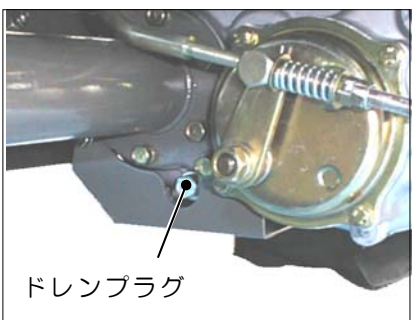
◎点検…



点検は、ミッションケース後部の注油栓を外して確認して下さい。注油口を通してミッションオイルが目視で確認できれば(注油口一杯まで)ほぼ規定量のミッションオイルが入っています。

参考；注油栓中央が規定量位置ではありませんので、注意して下さい。

◎交換…



交換は、オイルを受け取る適当な容器を用意し、初回は20時間目、それ以降は100時間を目安にミッションケース左側面下部のドレンプラグ(排油栓)を外して行って下さい。

◎注油…



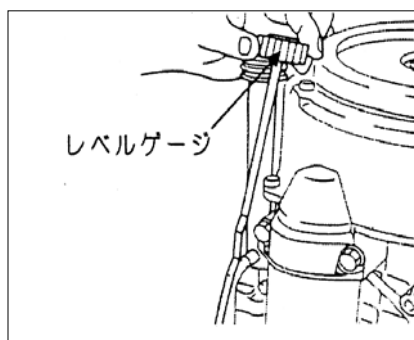
注油はドレンプラグ(排油栓)を取り付けた後、ミッションケース後部の注油栓を取り外し、注油口よりミッションオイル(#90)を1.0㍑入れて下さい。

注油後は、オイル漏れの無いよう注油栓を確実に締めて下さい。

参考；注油栓の締め過ぎに注意して下さい。ガスケット(Oリング)が取付面に接触してから更に3/4回転ねじ込みます。

あまり強く締め過ぎるとネジ部分が破損してしまいます。

エンジンオイルの点検・交換・注油



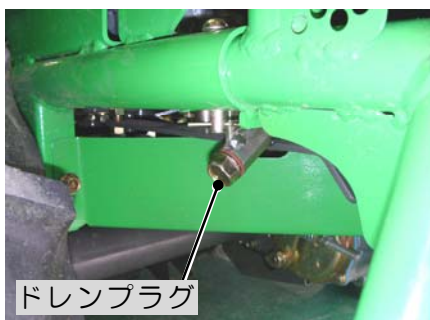
◎点検…

- ①給油栓についているレベルゲージで、エンジンオイルの質・量を毎日、もしくは8時間使用毎に点検して下さい。
〈11頁…エンジン始動のしかた参照〉
- ②常にレベルゲージの上限までエンジンオイルは入れておいて下さい。

◎注油・交換…

参考：

- 初回は5時間目、それ以降は50時間(オイルフィルタ付)運転毎、もしくはシーズン毎のいずれか早い時期を目安に交換して下さい。
- 但し、負荷条件の厳しい作業条件や高温環境下で連続長時間使用される場合は、上記時間に達する前、早め(約半分の時間)のエンジンオイル及びフィルタの交換をお奨めします。



①オイルを受け取る適当な容器を用意し、オイル給油栓を外した後、エンジン左後部のドレンプラグ(排油栓)を工具を使って外して下さい。

②オイルが抜き終わったら元の通りにドレンプラグをしっかりと締め付け、給油栓を取り外して下さい。

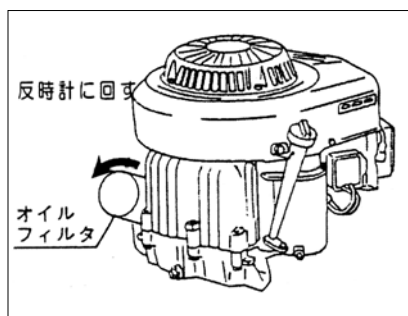
③まず、1リットルのオイルを給油し、約30秒間スロー運転して下さい。エンジンを一旦停止し30秒待ってレベルゲージの「FULL」位置までゆっくりとオイルを補給して下さい。
〈エンジンオイル量は36頁《仕様》参照〉



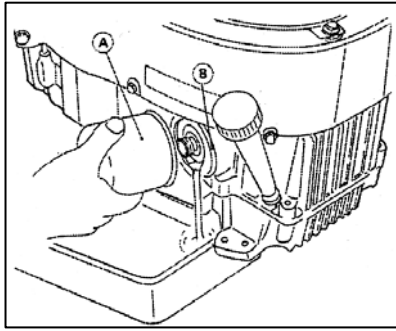
④エンジンオイル注油後、オイルがにじみ出ないように、給油栓はしっかりと締め付けておいて下さい。

オイルフィルタの交換

参考：必要に応じてエンジンオイルを排出した後、以下の要領に従ってオイルフィルタの交換をして下さい。



- ①フィルタⒶを反時計方向に回して取り外して下さい。
- ②新しいフィルタのガスケット部分に新しいエンジンオイルを塗布して下さい。
- ③フィルタを時計方向に回し、まずガスケットが取付け面Ⓐに接触し始めるところまでねじ込みます。更にそこから3/4回転ねじ込んで下さい。

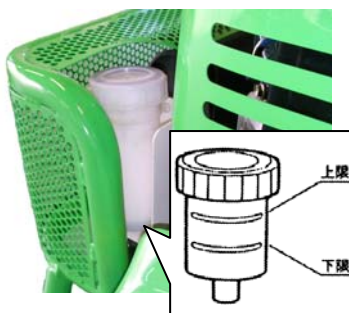


- ④給油口から新しい規定のオイルを給油して下さい。
 〈11 頁…エンジン始動のしかた参照〉
- ⑤レベルゲージでオイル量を確認後、給油栓をしっかりと締めて下さい。 〈11 頁…エンジン始動のしかた参照〉
- ⑥エンジンを低速で約2分間運転した後、オイルフィルタ取り付け面にオイルのにじみがないか確認して下さい。
- ⑦エンジンを止め、オイル量を再度チェックし、必要であれば補給して下さい。

参考：

- ・オイルフィルタの交換は工具をつかわず、手で行って下さい。
- ・オイルフィルタは 100 時間毎、もしくは毎シーズン交換して下さい。

HST オイルの点検・交換・補給



◎点検と補給

HST オイルタンク内のオイル量を外観から点検し、オイルのレベルが上限と下限との間にない場合には、オイルタンクのキャップを開け、HST オイルを上限まで補給して下さい。

◎交換

HST オイルは、最初は清浄であっても長時間運転するうちにユニット内へのスラッジ等の沈殿及びオイルの劣化等が進行し、HST の円滑な作動に支障をきたすようになります。安全で快適な作業を保つためにも定期的なHST オイルの交換をお願いします。又、HST オイル交換時には、ユニット、オイルタンク内に劣化したオイル、スラッジ等の沈殿物、水分等が混入しています。単に新しいHST オイルと交換するのではなく、事前に必ずこれらのフラッシングを行って下さい。

●…初回：70時間目。 ●…以降：年1回もしくは200使用時間毎どちらか短いほう

参考：（目で見えるHST オイルの判定方法）

外 観	匂 い	状 態	対 策
透明にして色彩変化が無い	良	良	そのまま使用する
透明にして小さな黒点がある	良	異物が混じっている	ろ過してから使用する
乳白色に変化している	良	水分が混入している	オイルを交換する
黒色に変化している	悪臭	酸化劣化している	オイルを交換する

▲ 注 意

- ・HST オイルを交換する場合には、製品お買い上げの販売店までご相談下さい。交換には特殊な工具及び整備技術が必要です。(有料)
- ・異種のオイルを混合させないで下さい。HST 故障の原因となります。
 製品出荷時にはVG46 相当の耐摩耗性油圧作動油が注油されています。

■ HST 指定オイル

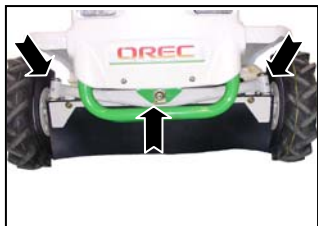
油種 \ 会社名	三 菱	日 石	昭和シェル	コスモ	JOMO	エッソ	モービル
耐摩耗性油圧作動油	ダイヤボルトハイポールト EP46	スーパ-ハイラッド 46	テラスオイル K46	ジャズハイポ AW46	JOMO ハイポラックス 46	エニパー SQ46	モビル DTE25

各部への注油のしかた

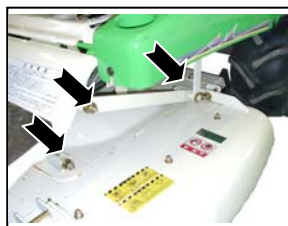
●約 30 時間毎にグリス又はエンジンオイル (#30)を注油して下さい。

注油を怠ると、油切れにより操作が重くなり、破損する恐れもあります。

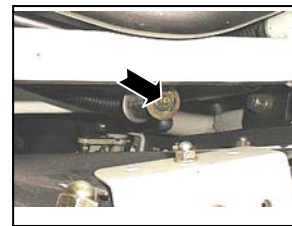
キックピン・ピストン(グリス)



カバー-上下リック支点(左右8ヶ所)



駐車ブレーキパダル



《各部の点検・整備・調整のしかた》

◇◇本機各部を点検・整備・調整する時は、本機を周辺に障害となるものがない平坦◇◇
◇◇地に置き、必ずエンジンを停止してキーを抜き、エンジン各部が冷めるのを待っ◇◇
◇◇て作業を開始して下さい。 ◇◇

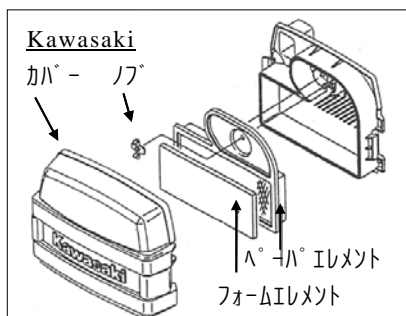
エアクリーナの清掃のしかた

⚠ 危険

●エアクリーナ・リコイルスタータが草屑等で目詰まりを起こしたまま作業を続けると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇して燃料への引火火災の原因となり大変危険です。必ず定期的な清掃を励行して下さい。

◇◇エアクリーナを外したままエンジンを始動させないで下さい。ゴミやホコリを吸◇◇
◇◇い込み、エンジン不調や異常摩耗の原因となります。 ◇◇

- ① クリップを取り外し、カバーを外して下さい。
- ② ホコリやゴミを気化器側に入れないように注意してフォームエレメントとペーパーエレメントを取り外して下さい。
- ③ プリクリーナ(フォームエレメント)は中性洗剤で洗浄後よく絞り、乾燥させて下さい。



- ④ カートリッジ(ペーパーエレメント)は軽く叩くか、内部からエア吹きしてホコリやゴミを落として下さい。
- ⑤ ホース内部の汚れをウエス等でふき取り、元の通りに組み付けて下さい。

<左図はカワサキエンジンのエアクリーナです。>

<ブリグスエンジンも同様に清掃下さい。>

⚠ 注意

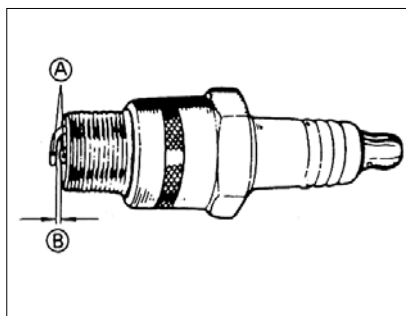
- ・ペーパーエレメントの汚れがひどい場合には新品と交換して下さい。
- ・洗浄時、フォームエレメントを強く引っ張ったりもんだりしないで下さい。エレメントが破れます。
- ・ペーパーエレメントを叩く時にはろ紙を傷付けないように注意して下さい。
- ・ろ紙をブラシでこすらないで下さい。

エアクリーナの清掃、交換時期				
フォームエレメント	清 掃	25時間毎	交 換	200時間毎
ペーパーエレメント	清 掃	50時間毎	交 換	200時間毎

参考：

- チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けて下さい。

点火プラグの点検・調整のしかた



- ①プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分Aにカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。
- ②中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。
- ③点火プラグの電極隙間Bを0.7～0.8mmに調整して下さい。

参考：

- ・搭載エンジンはV型2気筒です。プラグの点検・交換は2本同時に行い、片側だけの清掃及び交換はしないで下さい。エンジン不調の原因となります。
- ・締め付け時は、始め手でねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。始めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。

<点火プラグ基準…38頁《仕様》参照>

燃料パイプ点検のしかた

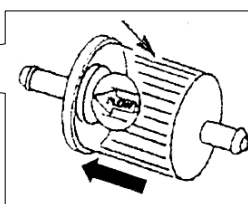
⚠ 危険

くわえたばこや裸火照明での作業禁止



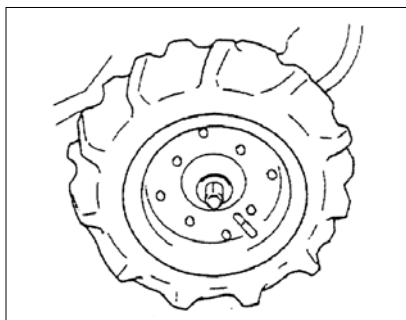
- ・燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締め付けバンドと共に3年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
- ・パイプ類や締め付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。
- ・交換時、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

燃料フィルタの清掃のしかた



インライン燃料フィルタはシーズン毎もしくは必用に応じて早めに交換して下さい。これの分解・清掃はできません。交換時には挿入方向に注意して下さい。詳しくは販売店にお尋ねください。

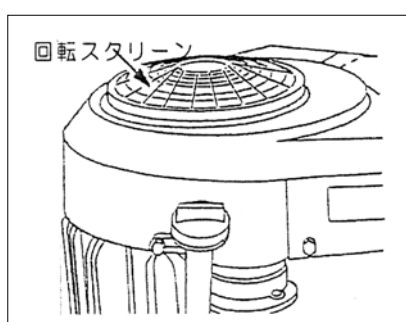
タイヤ空気圧の調整のしかた



- 前後輪のタイヤ空気圧のチェックを下表に従って行って下さい。
- 左右のタイヤの空気圧が均等になっていないと、作業中ハンドルを取られる恐れがあります。

	タイヤサイズ	空気圧 kg/c m ²
前 輪	3.50-7	1.2
後 輪	16×7.00-8	1.4

エンジン冷却系の清掃のしかた



- ① 毎回使用前に回転スクリーン上及びエンジンボンネット上部に堆積した泥・草屑等の異物を取り除いて下さい。また、必要に応じてエンジンボンネット内部をエア吹きして下さい。
- ② 作業終了後は、清掃のために取り外したカバー類を必ず元通りに取り付けておいて下さい。

参考：

- エア吹きする時はシートを立てたほうが草屑、ゴミ等が排出されやすくなります。
- 同時にHSTファンカバー内外周辺部に堆積した草屑等も取り除いて下さい。そのまま使用を続けると、HSTオイル温度の上昇により、HST本来の性能が発揮できなくなります。

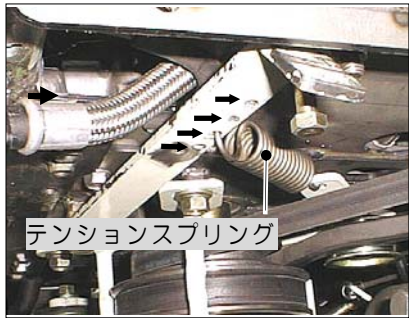
▲ 注意

- 各パーツはエンジンが冷えてから取り外し、清掃後は各パーツを全部取り付けないうちは、エンジンを始動させないで下さい。
- エンジン冷却系統に草屑等が堆積したまま作業を続けると、オーバーヒートの原因となるばかりでなく、エンジン温度の上昇により、火災の原因となります。
- 回転スクリーンはエンジンとともに回転します。回転中のスクリーンに手等を近づけないで下さい。ケガをする恐れがあります。

各部ベルト・ワイヤ・ロッド調整のしかた

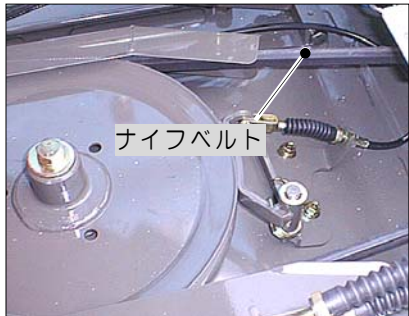
▲ 注意

- 各ワイヤを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所においてエンジンを停止し、キーを抜き、駐車ブレーキを掛けた後、十分安全を確認して行って下さい。
- ベルト及びナイフブレーキの調整は、シートブラケットを固定しているファスナーを開け、シートを立てた状態で行って下さい。（持ち上げればその位置で固定します。）
- 作業方法が不明の場合には、製品お買い上げの販売店までご相談下さい。（この場合、有料となる場合があります。）



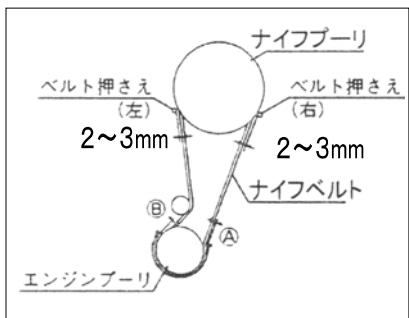
■ 走行ベルト調整

- 走行ベルトは常に張られた状態にあります。
 - 走行中ベルトがスリップする場合には左図を参考にテンションスプリングの引位置を変えてベルトの張りを調整して下さい。
- 〈ベルトサイズは 38 頁…《仕様》参照〉



■ ナイフベルト調整

- ベルトに損傷がないか目視点検してください。
 - ヒビ、摩耗等の損傷があれば新品と交換して下さい。
- 〈ベルトサイズは 36 頁…《仕様》参照〉



■ ベルト押え調整

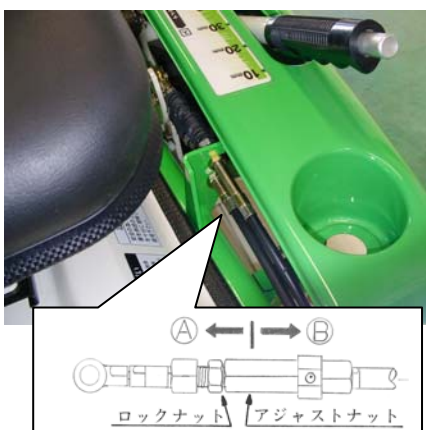
- 新しいベルトと交換した場合には以下の要領で調整して下さい。
- ① ベルトはプーリの溝より少し浮く程度に両ベルト押えで押えて下さい。
 - ② ナイフプーリ側のベルト押えとベルトの隙間を約 2~3mm にセットして下さい。
 - ③ エンジンプーリ側のベルト押えとベルトの隙間 A を約 2~3mm、B を約 10mm 程度にセットして下さい。

参考：

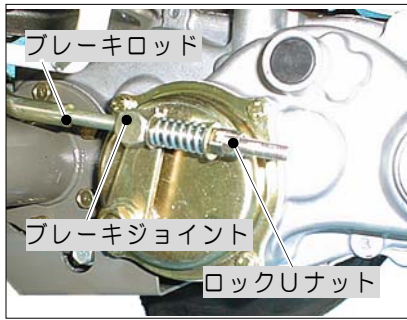
- 上記①はナイフクラッチレバーを「切」位置で、②及び③は「入」位置で行って下さい。

■ ナイフブレーキ調整

- ナイフはナイフクラッチレバーを「切」位置にすると約 5 秒以内で停止します。停止しない場合は、ブレーキワイヤのアジャスタを A 方向に移動して調整して下さい。(ブレーキの引きずりは本機故障の原因となります。)
- 調整後はロックナットで確実に固定して下さい。
- 調整できない場合はブレーキライニングが摩耗しています。販売店に交換を依頼下さい。(有料となります)



- 性能維持に限らず、特に制動面に関する定期点検は安全性維持のためにも不可欠です。乗用の場合には重大な事故につながる危険もありますので、必ず年次点検表に従った点検を少なくとも年に一回は製品お買い上げの販売店にご依頼下さい。(有料)



■ 駐車ブレーキ調整

- ① 駐車ブレーキはミッションの左側後部にあり、これに接続されているブレーキロッドで調整して下さい。
- ② 調整は駐車ブレーキペダルを一杯に踏み込んだ時（ペダルをロックした時）後輪が「ロック」するようにブレーキロッド後部のアジャストナットで調整します。
- ③ アジャストナットを右に回して締め込んでいくと早く効き始め、反対に弛めると遅くなります。

調整後は、駐車ブレーキペダルを「ロック」し、副変速レバーを「中立」位置にした状態で本機を前後に押しても動かない又は傾斜地でも動き出さないことを確認しておいて下さい。

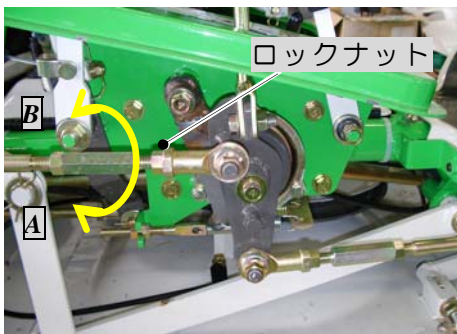
▲ 警告

- ブレーキシューも消耗します。上記の方法では調整代が取れない場合には、ブレーキシューの摩耗が考えられます。販売店に交換をご依頼下さい。又安全のため、使用時間が 100 時間に達しない時点で定期交換をして下さい。交換の際にはUナット(メック付)、割ピンも同時に交換します。(ジョイントの取り付け状態も同時に確認して下さい)
- 駐車ブレーキ先端での遊びが 15~20mm 程度になるよう調整し、(適度な遊びがないとブレーキのひきずりの原因になります)調整後はロックナットを確実に掛けて下さい。
- ベルトも消耗します。異常があれば新品と交換して下さい。調整は初回 10 時間目、以降 50 時間運転毎に行ってください。

■ チェンジペダル調整

参考：

- 変速レバーの調整は、通常ミッションの分解等を行った時以外必要はありません。
- 変速レバーの位置がガイド表示とずれている場合に調整して下さい。



- ① 変速レバーを中立「N」位置にして下さい。
- ② 変速レバーに連結されたターンバックルを回して調整します。

■ 前進方向に微動する場合

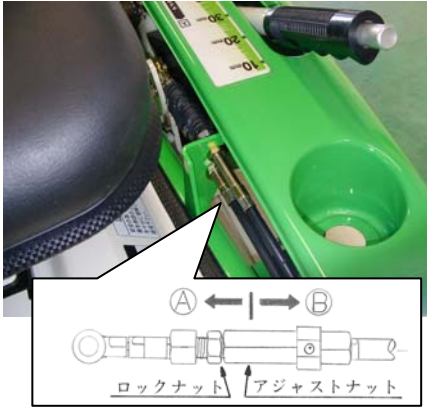
…ターンバックルをA方向に回します。

■ 後進方向に微動する場合

…ターンバックルをB方向に回します

参考：

調整後はロックナットで確実に固定して下さい。ロックしないと運転中にシフト位置がずれる恐れがあります。



■ ナイフクラッチワイヤ調整

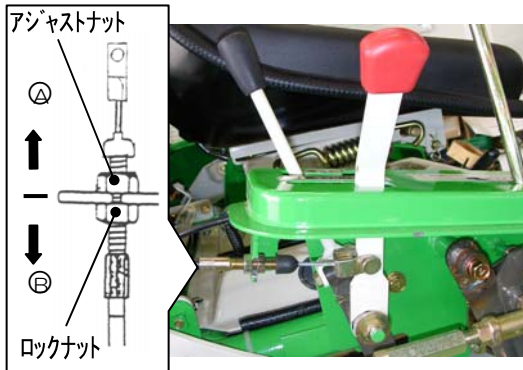
左図を参考にナイフクラッチワイヤの中間アジャスタナットで調整して下さい。

■ ナイフベルトの張りが弱い場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

■ ナイフベルトの張りが強い場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…



■ デフロックワイヤ

左図を参考にデフロックワイヤのアジャストナットで調整し、整後は確実に作動するか確認して下さい。

■ デフロックされない場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

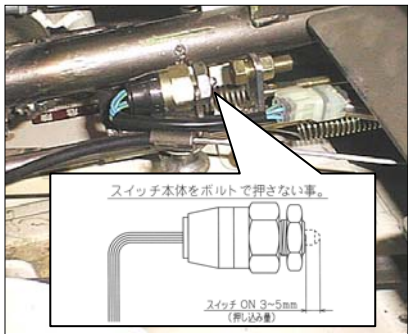
■ デフロックが解除されない場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

参考：

デフロックレバーが「切」位置(解除)の時、レバー根元での遊びが1～3mm 程度になるよう調整して下さい。調整後はいずれもロックナットを確実に締め付けておいて下さい。

■ セーフティスイッチ調整



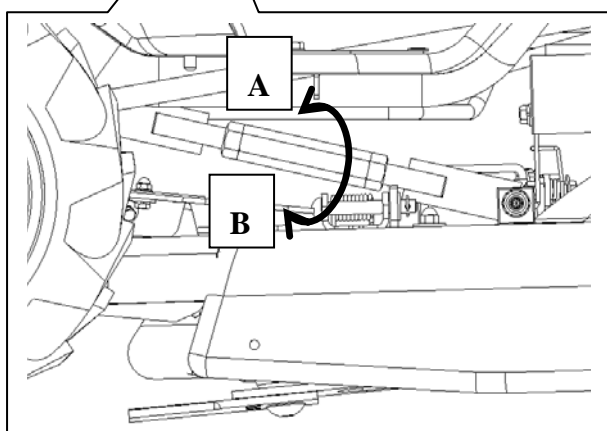
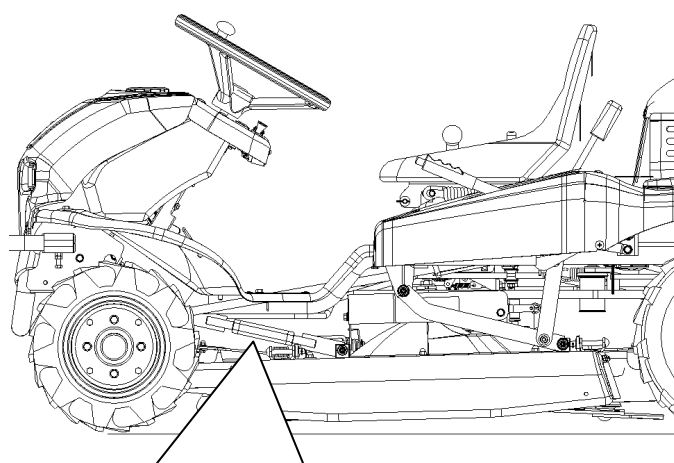
このスイッチは、スイッチ先端が 3.0～5.0mm の範囲で押し込まれたときに作動するようになっています。

この範囲以外でスイッチ先端が押し込まれた場合にはエンジンが始動しないばかりでなく、特に押し込みすぎた場合にはスイッチ本体が損傷し、ペダルを「ロック」しなくてもエンジンが停止しない等の不具合が発生する場合があります。調整は左図を参考に、シートブラケットを立てて行います。まずペダルを「ロック」し、相手ボルト先端の出面で上記数値になるよう調整して下さい。

● クラッチブレーキスイッチは、シートブラケットの下右側に、ナイフクラッチスイッチは刈高調整レバー根元にあります。

● 調整後は、相手ボルトをロックし、シートは元の位置に戻してノブボルトをしっかり締め付けておいて下さい。

■刈取ナイフ角度調整

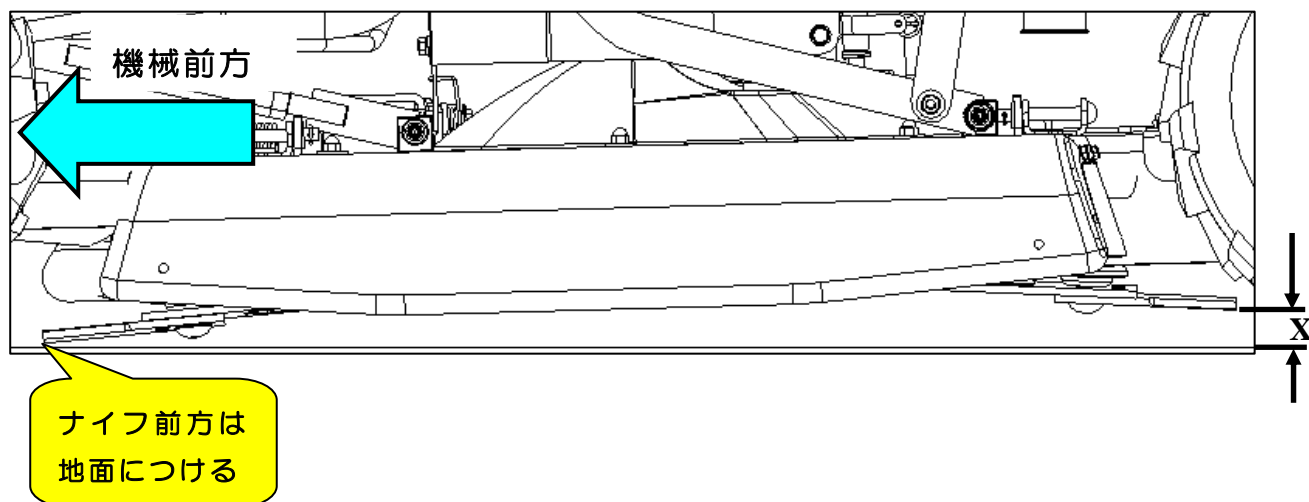


長年使用されていますと、刈高が高い位置でも、地面にナイフが接触してしまうことがあります。

その場合、フロントリンクアームの長さを調整してください。

機械左側のフロントリンクアームは A 方向に回すと短くなり、B 方向に回すと長くなります。同様に右側のフロントリンクアームも調整してください。（ネジのピッチは2mm/回転）

最適な刈取ナイフの角度は下図のように、機械を平坦な場所に停車しナイフを機械と平行になるように向けます。ナイフ前方が地面に着くように刈高を下げた時に、ナイフ後方 X の高さが約25mmになるようにフロントリンクの長さを調整してください。



参考；

調整する際は必ずエンジンを止めて行ってください。

調整後はロックナットで確実に固定して下さい。

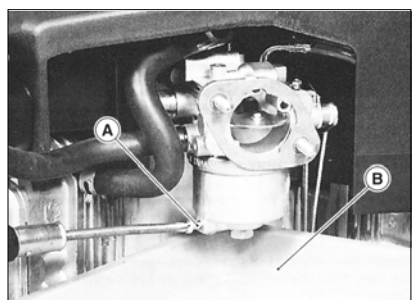
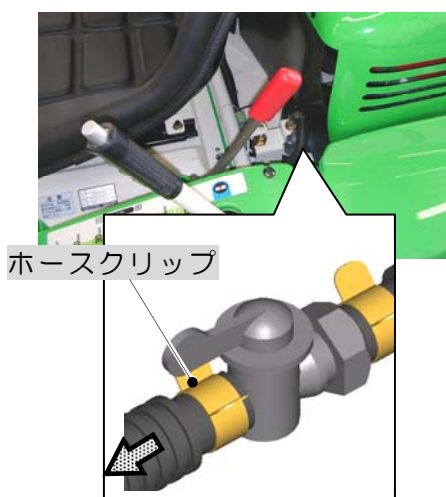
●寒冷地での注意

- 冬季は、使用後必ず本機に付着した泥や異物を取り除き、コンクリートか硬い乾燥した路面上に駐車して下さい。付着物が凍結して故障の原因になります。
- 又、凍結して運転不可能になった場合には、無理に動かそうとはせずに、凍結箇所をお湯で溶かすか、凍結が溶けるまで待って下さい。
(無理に動かした場合の故障については責任を追いかねますので特に注意して下さい。)

《長期保管のしかた》

⚠ 警告

- 本機を保管する場合は、堅い平坦な場所で本機を水平にして下さい。
- 燃料を抜く時は火気厳禁。
- 風通しの良い場所で行って下さい。
- 燃料タンク内のガソリンを抜く時は、エンジンとマフラが冷えてから行って下さい。
- 抜いた燃料の取扱いには十分に注意して下さい。
- 取り外したホース、クリップ、ドレンボルト類は元通りに取り付けておいて下さい。



⚠ 危険

くわえタバコや裸火照明での作業禁止

- ①本機を 30 日以上使用しないときには、燃料変質による始動不良又は運転不調にならないよう、まず燃料タンク内の燃料をポンプ等で給油口から容器に抜き取り、残りの燃料を燃料コックのタンク側の燃料ホースをクリップを前方にずらして外し、残留燃料を容器 B に移して下さい。次にドレンボルト A をドライバで弛め、気化器内の燃料を容器 B に排出し、湿気のない場所を選んで保管して下さい。
- ②エンジン及び本機の外面をオイルの染みた布で清掃して下さい。(取り外した部品は元通りに取付けておいて下さい)
- ③エンジンオイルを交換して下さい。

〈22 頁…エンジンオイル交換参照〉

- ④各部の清掃を十分に行って下さい。特にリコイルスタータ、エアクリーナ、マフラ、HST ファンカバー、気化器付近やベルトカバー内に堆積した草やホコリをエア吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

…草やホコリが堆積したまま作業を続けると…

草屑等による目詰まりでエンジンが過熱し、焼き付や、火災の原因になります。

参考：

ナイフカバー内の草屑はこれが乾かない内にホース等で加圧した水で清掃を行うと比較的簡単に洗い落とすことができます。

…このとき、エンジンの電装関係や気化器、エアクリーナ、マフラ排気口に水がから

ないようカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。

- ⑤各給脂・注油箇所それぞれグリースアップ、注油をしておいて下さい。
- ⑥駐車ブレーキを掛けて、屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管して下さい。
- ⑦本機にカバー等をかけてほこりがつかないようにして下さい。保管中は、定期的にタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて空気を入れて下さい。

《ナイフの点検・交換・修正のしかた》

ナイフの点検・交換・修正

■作業を安全に行うため、ナイフの作業前点検をおこなって下さい。■

▲ 警告

- ・ナイフを交換する際には必ず、メーカー純正品とご指定下さい。メーカー純正品以外の使用による故障・事故については保証の対象外となります。
- ・前回の作業時に縁石や木の根等にナイフが当たり、ナイフの曲がりや欠損が生じていないか、又、ナイフが摩耗していないか作業を始める前に点検して下さい。
ナイフの摩耗、割れ、曲がり、欠損等を放置したまま作業を続けると、作業中にナイフが折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当たったりして重大な人身事故を招く原因となったり、振動によりエンジンからの出火原因となる場合があります。
- ・ナイフは高速で回転します。一本でもナイフが欠けたり、折損したりするとそれだけで振動の原因となります。振動したまま作業を続けると危険なばかりでなく、振動により本機各部にヒビや割れ発生の原因となり、本機寿命を著しく縮めます。
- ・ケガを避けるため、点検・交換は丈夫な手袋をつけて行って下さい。

▲ 注意

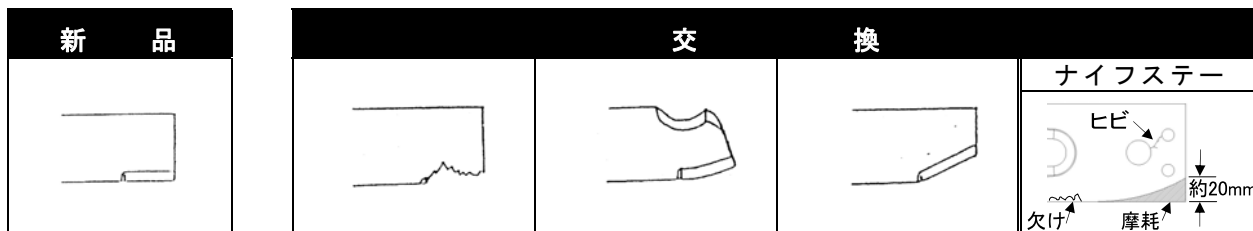
- ・ナイフの交換・修正等の作業は適切な工具と整備技術をおもちの方が実施して下さい。
- ・ナイフ締め付けボルト、ナットも摩耗します。ナイフの交換時には必ずナイフ締め付けボルト、ナットも同時に交換するようにし、決して他のボルト、ナットで代用しないで下さい。
- ・作業をする時は手を滑らさないように十分注意して下さい。
- ・ナイフの交換時は全数を同時交換下さい。新旧ナイフ混同は異常振動発生につながります。



■ ナイフの点検・交換のしかた

- ①エンジンを停止し、キーをエンジンスイッチから取り外して下さい。 <13頁…エンジン停止のしかた参照>
- ②刈高調整レバーで刈高を中間位置程にして下さい。
- ③ナイフ交換用サイドカバーを一杯に開け、固定して下さい。
- ④ナイフ及びナイフステーの取付状態を点検して下さい。
- ⑤ナイフ及びナイフステーの割れ、曲り、摩耗を点検して下さい。

下図の様に異常な状態になっていたらナイフの裏表を入れ替えて使用するか交換して下さい。

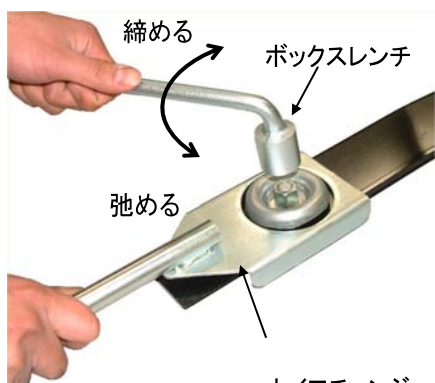


参考：

- ナイフ同様ナイフステアも消耗します。曲げ、摩耗等が認められない場合でも100時間若しくは2年毎のいずれか早いほうで交換して下さい。
- 乾燥した土や砂を含んだ場所での使用はナイフの摩耗が早いので頻りに点検して下さい。
- 予め予備のナイフをお買い求め頂き、手元におかれておくことをお奨めいたします。

■ ナイフ交換のしかた

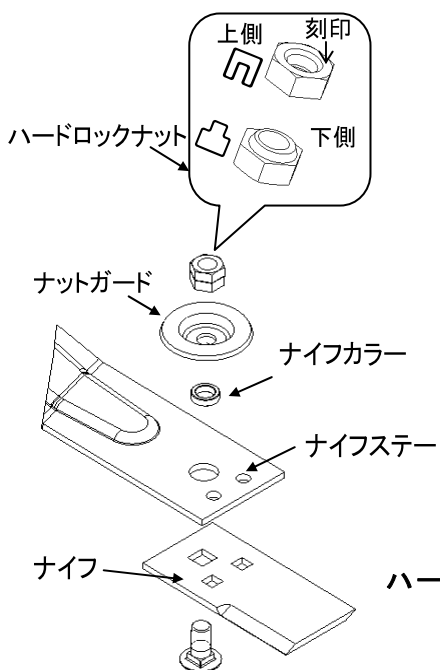
口点検の結果、ナイフの交換(裏返し)が必要な場合には、下記を参考にナイフの脱着を行って下さい。



■ ナイフの取り外し

- ①まずナイフチェンジをナイフステア及びナイフの上から被せるようにして掛け、ナイフを確実に固定して下さい。
- ②ボックスレンチをハードロックナットに掛け、最初に上側、次に下側の順番で緩めてハードロックナットを取り外します。その際、ナイフカラーの紛失にご注意下さい。

■ ナイフの取り付け



- ①まずナイフカラーがナイフステア中心の取付穴に入るようにして、左図を参考に下側のハードロックナットでナイフをナイフステアに取付けておいて下さい。

ハードロックナットは2分割で、下側のナット上部には凸があり、上側と比べるとやや薄くなっています。上側のナット下部には凹があり上面には「HARD-ROCK」の刻印があります。

- ②次に■ナイフの取り外し①を参考にナイフチェンジを確実に取付けて下さい。
- ③ボックスレンチでまず下側のハードロックナットをしっかり締め上げ、次に上側のハードロックナットをしっかり締め上げて下さい。

ハードロックナットの締め付けトルクは以下の通りです。

$800 \text{ kgf-cm} (78.4 \text{ N}\cdot\text{m})$

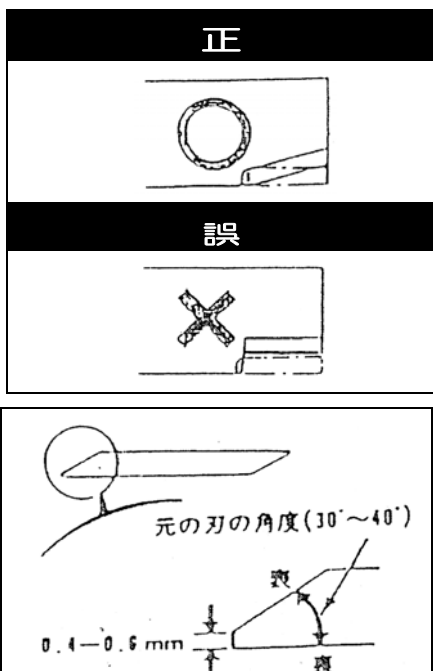
◇◇ナイフ取付ボルト裏面のゲージ(くぼみ)が摩耗して段差がなくなれば交換時期です
目安として下さい。◇◇

▲ 注意

- ナイフの脱着には必ず専用工具(ナイフチェンジ)及びボックス(メガネ)レンチを使用下さい。(両ロスパナの使用は危険です。)使用しないと十分な締付トルクが得られません。
- 安全の為、ナイフ取付ボルトはナイフの表裏入替及び交換都度、その他の部品はナイフ交換の都度必ず同時に交換して下さい。
- ナイフ脱着の際には、ナイフカラーの紛失、入れ忘れにご注意下さい。

ナイフの修正

□□修正を行うとナイフの初期の性能が損なわれますのでご承知おき下さい□□



①以下の要領でナイフを研磨して下さい。

- ・ 研磨の際には、ナイフをしっかりと保持して下さい。
- ・ ナイフを元の刃と平行に研磨すると、破損の原因となります。左図のように研磨して下さい。
- ・ ナイフのバランスを崩さないように、使用する両側の刃を同量だけ研磨して下さい。

②刃先には 0.4~0.6 mm 程度の平らな部分を残しておいて下さい。かみそりの刃のように刃先をとがらせると、すぐに摩耗し切れ味が鈍ります。

参考；

グラインダで研磨する際には、水をかけながらナイフの温度を上げないようにして少しずつ研磨して下さい。ナイフの温度が上がりすぎると熱処理が戻り、摩耗が速くなります。

▲ 注意

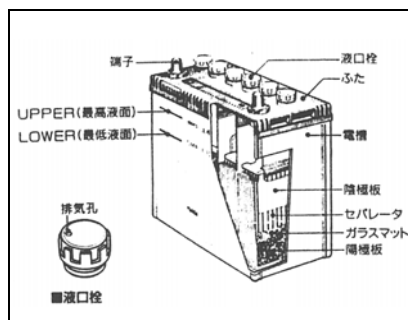
- ・ グラインダを使用する際には必ず帽子、厚手の手袋、防護メガネ等をつけて安全に注意して行って下さい。ナイフの修正は必ず左右共に行って下さい。〈片方のみの修正は禁止！〉
- ・ 両ナイフのバランスが取れていないと異常振動が生じ、本機破損の恐れもあります。

《バッテリー保守・点検のしかた》

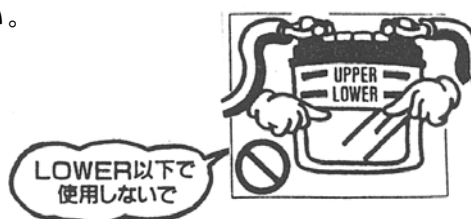
バッテリーは、取扱を誤るとバッテリーの寿命低下や重大な事故につながる恐れがあります。正しい取扱方法で十分に機能を発揮させてください。

バッテリー液の補水・補充電

■ 補水のしかた



毎日の始業点検で電解液高さを確認して下さい。使用しない場合でも1ヶ月に1度は電解液高さを点検して下さい。液面がUPPER（最高液面）LOWER（最低液面）間の半分以下に下がっていれば精製水（蒸留水）をUPPERレベルまで補充して下さい。



▲ 警告

- バッテリーは電解液をLOWER（最低液面）以下にしないで下さい。短寿命、発熱や爆発の原因となることがあります。
- バッテリーへは精製水以外は入れないで下さい。（希硫酸は補充しないで下さい。）不純物を入れた場合、発熱、発火、有毒ガス発生の原因となる事があります。
- 精製水（蒸留水）を入れすぎると電解液がこぼれて金属を腐食させる原因となります。UPPER（最高液面）以上入れないで下さい。万一バッテリー液をこぼした場合には、必ず水洗いをして下さい。
- 補水後は、液漏れがしないよう、液口栓をしっかりと付けて下さい。



■ 補充電のしかた

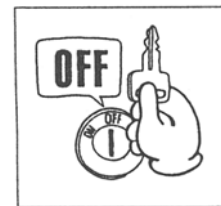
- バッテリー液面管理を行っていてもエンジンが始動しなかったり、セルモータの回転がいつもより低くて弱い場合には、バッテリーが放電していますので以下の要領に従って5～10時間の補充電を行って下さい。

▲ 警告

- バッテリーを取り扱うときはショートや火花、火気に注意して下さい。
- バッテリーからは可燃性の水素ガスが発生しています。引火爆発の原因となりますので、バッテリーの近くに火気（マッチ、ライター、タバコの火、溶接機やグラインダ等の火花、端子部分のスパーク等）を近づけたり発生させたりしないで下さい。
- 帯電した体でバッテリーに触れたり、乾いた布等で清掃したりしないで下さい。静電気による引火爆発の原因となることがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意して下さい。

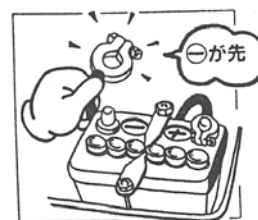
い。もし事故が発生した場合には 41 頁の「事故時の処置方法」に従い処置して下さい。

- 充電時、バッテリーは必ず本機から取り外して下さい。電装品の損傷や配線等を傷める事があります。尚、急速充電は補充電の方法として適当ではありません。急速充電は緊急時に限り、その他は通常充電を厳守して下さい。



① バッテリーの取り外し手順

- (1) 本機のエンジンを止め、スイッチキーを抜いて下さい。
- (2) バッテリーの搭載状態（端子の極性位置）を記録しておいて下さい。
- (3) 本機側の⊖ケーブル端子のボルトを緩め、バッテリーの⊖端子からケーブル端子を外して下さい。
- (4) 次に⊕ケーブル端子のボルトを緩め、バッテリー⊕端子からケーブルを外して下さい。
- (5) バッテリー取り付け金具を緩め、バッテリーを水平状態で取り外して下さい。バッテリーは重量物ですから注意して取り扱って下さい。



② 補充電（41 頁参照）

- (1) 充電器は電源がOFF（切）になっている事確かめてからお使い下さい。ON（入）の状態ではバッテリーに接続するとスパークが発生し、引火、爆発の原因となります。

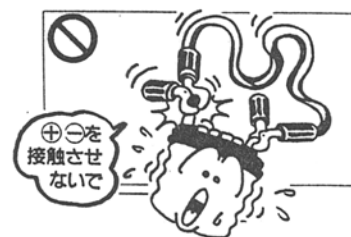
- ブースト（始動補助）機能付の充電器の使用は、充電器の取扱説明書に従って下さい。取り扱いを誤ると、バッテリーの爆発や本機・機器損傷の原因となります。

- 充電は、風通しの良いところで行い、火気を近づけないで下さい。引火、爆発の原因となります。

- (2) 充電器の⊕側とバッテリーの⊕、充電器の⊖側とバッテリーの⊖を接続して下さい。接続を誤ると電気回路の故障や配線が焼損する原因となります。



- (3) 液口栓 6 個を全て取り外して下さい。
- (4) 補充電は、普通充電電流と充電時間を守って下さい。液漏れや引火、爆発の原因となることがあります。



⚠ 注意

急速充電は長期間放置したバッテリーを回復させるための充電には適当ではありませんので行わないで下さい。やむを得ず、急速充電を行う場合には、バッテリー定格要領の値以下の充電電流で行って下さい。

- (5) 補充電完了後は、液口栓 6 個は元の通りにしっかりと取り付けおいて下さい。

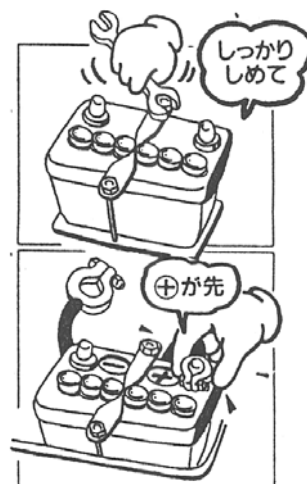
■ 補充電完了の目安（下記条件を満足する事）

①	電解液比重が 1.270 / 20°C 以上で 1 時間以上一定値を続けている。
②	端子電圧が 1.5 V 以上で 1 時間以上一定値を続けている。
③	各セルからガスが盛んに発生している。
④	予定の充電時間に達している。

③ 取り付け作業手順

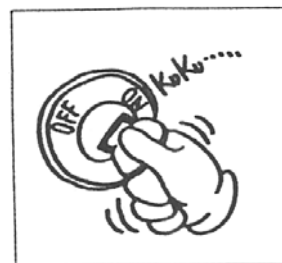
- (1) バッテリ取り付け台に異物がない事を確認し、取り外したバッテリーの端子極性が同じ位置になるように取り付け台に載せ、取り付け金具でガタツキがないようにしっかりと固定して下さい。
- (2) 本機側の⊕ケーブル端子をバッテリー⊕端子に取り付け、緩みがないようボルトをしっかりと締め付けて下さい。
- (3) 次に本機側⊖ケーブル端子をバッテリー⊖端子に取り付け、緩みがないようにボルトをしっかりと締め付けて下さい。
- (4) ケーブル端子の金属部に、錆止めにグリースを薄く塗布すると防錆上効果的です。

- ケーブル端子が腐食している場合には、ワイヤブラシ、目の細かいサンドペーパー等で清掃して下さい。



■ 始動

本機への取り付けが完了したらエンジンを始動して下さい。尚、始動操作は5秒以内とし、1回で始動しない場合は10秒位休止後、再び始動操作を行って下さい。但し、この操作を行っても始動しない場合は、バッテリーの寿命も考えられますので、バッテリーや始動回路等を調べて下さい。



■ バッテリーの寿命について

バッテリーは使用中に、その容量が徐々に低下し、寿命となります。補充電しても性能が回復しないものは寿命です。

- 寿命は次の要因によって短縮されます。

- ・ 高温（環境温度）
- ・ 使用頻度（使用が少なすぎても、多すぎても影響を受けます。）
- ・ 充電不足（アクセサリ装着のし過ぎ。発電機の故障等による供給不足。）
- ・ 過酷な使用（寒冷地での多用、充電不足での使用等。）
- ・ 保守の不備（バッテリーの液面点検や補水の怠り、端子部分の緩みによる接触不良、スイッチキーの切り忘れによって、バッテリー上がりした場合。）
- ・ 過剰な充電（レギュレータの故障、完了時点を過ぎてても充電を終了しないで充電し過ぎた場合。）

- 寿命末期には次のような兆候が起こります。

- ・ スタータモータの回転音がいつもより低くて弱い。
- ・ バッテリーの電解液の減りが早い。

これらの兆候が現れた時には上記に注意しながら補充電を行って下さい。

補充電後も兆候がなくならない場合には、バッテリーの寿命ですので交換をお勧めします。

使用バッテリー…40B-19R

《仕様》（参考数値）

名 称		ラビットモア	
型 式		R M 9 7 A	
全長×全幅×前高(mm)		1,900×1,060×860	
刈 幅(mm)		950	
重 量(kg)		280	
刈 高(mm)		10～80(アシスト付無段階)	
ナイフ(枚)		フリーナイフ×2 & 段付ステー×1	
ベルト (本)	走行	スーパーゴールド1000 LB33×1	
	刈取	スーパーゴールド1000 LB78×1	
タイヤサイズ (本)	前輪	3.50-7(φ350)×2、チューブタイヤ	
	後輪	16×7.00-8(φ400)×2、チューブタイヤ	
デフロック		有	
ハンドル		サブハンドル付き丸ハンドル(上下4段調整可)	
変速機		HST無段変速	
ギヤオイル量(ℓ)		1.0(#90)	
ブレーキ		ミッション装備内拡式走行・駐車ブレーキ	
速 度 (km/m)	前 進	副変速 [低 ] 0～6.1 / [高 ] 0～10.4	
	後 進	副変速 [低 ] 0～2.9 / [高 ] 0～5.0	
バッテリー		40B-19R	
エ ン ジ ン	名 称	Kawasaki	Briggs&Stratton
	型 式	FH531V	356777
	排気量(cc)	494	570
	潤滑油量(ℓ)	1.5	1.7
	最大出力	13.5kW(18HP)/3,600rpm	13.5kW(18HP)/3,600rpm
	始動方式	セルスタータ	セルスタータ
	点火プラグ(2本)	CHAMPION-RCJ8Y × 2 NGK-BPMR6A × 2	CHAMPION-RCJ12Y × 2 NGK-BKR5E × 2
	タンク容量(ℓ)	14	

※本仕様は改良のため予告なく変更する事があります。

《工具袋・同梱品明細》

No.	部 品 名	規格・寸法	個数	備 考
1.	取扱説明書		1	
2.	品質保証書		1	販売店控
3.	両口スパナ	10×12	1	
4.	〃	14×17	1	
5.	L型レンチ	22mm	1	
6.	ゴーグル	防曇タイプ	1	保護具
7.	年次点検表		1	販売店控
8.	ナイフチェンジCMP		1	

《消耗品一覧》

No.	部 品 名	部 品 番 号	個数/台	備 考
1.	フリーナイフ	80-1483-821-00	2	
2.	ナイフステー	0244-51100	1	
3.	取付ボルト set	0244-78200	2	取付ボルト、ナットガード、ハードロックナット、
4.	ナイフカラー	80-1483-818-00	2	
5.	ナイフ取付ボルト	0207-50200	2	M14×32
6.	ハードロックナット M14	0244-74600	2	特殊ダブルナット 1set
7.	ナットガード	0244-51800	2	M14 用
8.	バッテリー(40B-19R)	0244-70500	1	40B-19R
9.	Vベルト(走行)	89-6123-003303	1	LB-33 SG1000
10.	Vベルト(刈取)	89-6123-007502	1	LB-78 SG1000
11.	刈取クラッチワイヤ	0244-72300	1	
12.	ナイフブレーキワイヤ	0244-72200	1	
13.	デフロックワイヤ	0244-72400	1	
14.	スロットルワイヤ	0244-72100	1	
15.	チョークワイヤ	0244-72600	1	
16.	オイルフィルタ	49065-2071	1	ワサキ (オイルエレメント)
17.	フォームエレメント	11013-7009	1	ワサキ (エア用、スポンジ状)
18.	ペーパーエレメント	11013-7027	1	ワサキ (エア用、カートリッジ)
19.	フュエル・フィルタ	49019-7001	1	ワサキ (燃料フィルタ)
20.	危険マーク②	83-1484-921-00	2	手足危険…
21.	危険マーク⑧	83-1516-922-00	1	刈取部周辺は…
22.	危険マーク⑫	0207-78100	1	ナイフ取付ボルトの…
23.	注意マーク⑰	83-1516-908-00	5	このカバーなし…
24.	注意マーク⑱	83-1516-915-00	1	安全のため…
25.	注意マーク⑳	80-1482-908-00	1	カバーは閉めて…
26.	注意マーク㉑	0207-75600	1	注意事項…
27.	注意マーク㉒	0207-75500	1	エンジンの始動要領
28.	注意マーク㉔	80-1791-935-00	1	公道乗車禁止…
29.	おねがい	0215-70800	1	安全のため、年次…
30.	危険マーク㉖	83-1516-918-00	1	作業中は…
31.	警告マーク	0244-82400-00	1	車への乗せ降ろし…
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				

《定期自主点検表》

★点検や整備を怠ると事故や故障の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は1年に1回、月次点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

項目	点検内容	点検実施時期					
		始業	月次	年次			
原動機	本体	①かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか	○	○	○	
		②回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか	○	○	○	
		③排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○	
		④エアクリーナの損傷、弛み、汚れ	損傷なく、取付部に弛み、著しい汚れはないか		○	○	
		⑤シリンダヘッドと各マニホールド締付部の弛み	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか			○	
		*⑥弁すきま	(正規の隙間であるか)			○	
		*⑦圧縮圧力	(正規の圧縮圧力であるか)			○	
		⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み	エンジンベースに亀裂、変形又はボルト・ナットに弛みはないか	○	○	○	
	潤滑装置	①油量、汚れ	オイル量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか	○	○	○	
		②油漏れ	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか	○	○	○	
	燃料装置	①燃料漏れ	燃料の漏れはないか	○	○	○	
		②燃料フィルタの詰まり	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか		○	○	
		③燃料の量及び質	燃料は入っているか、又質は良いか	○	○	○	
	電気装置	①電気配線の接続部の弛み、損傷	ハーネス接続は適切か、又弛み、損傷はないか		○	○	
		清浄装置	①エアクリーナエレメントの汚れ	エアクリーナエレメントに汚れはないか	○	○	○
	②エレメントの破損		エレメントに破れ、スリ切れはないか	○	○	○	
	冷却系統	①リコイルカバーへの草屑等の目詰まり	リコイルカバーが草屑等で目詰まりしていないか	○	○	○	
		②マフラーへの草屑等の堆積	マフラー周辺に草屑が堆積していないか	○	○	○	
	伝達装置	ベルト	①弛み	ベルトの張り具合は適切か	○	○	○
			②損傷、汚れ	亀裂、損傷、著しい汚れはないか		○	○
		ミツヨシ	①異音、異常発熱及び作動	作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか		○	○
②油量、汚れ			オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか			○	
③油漏れ	オイルシール、パッキン部に油漏れはないか	○	○	○			
制動装置	ブレーキ	①駐車ブレーキの利き具合	ブレーキの利きは甘くないか、又引きずりはないか		○	○	
		②遊び	駐車ブレーキペダルの遊びは適切か		○	○	
		③ロッド及びワイヤの損傷、弛み、ガタ、割ビンの欠落	著しい損傷及び弛み、ガタ、脱落はないか	○	○	○	
車体	車体	①亀裂、変形及び取付ボルト・ナットの弛み、脱落	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの緩み、脱落はないか		○	○	
	カバー	②亀裂、変形、腐食	亀裂、変形、腐食はないか			○	
	可動部	①各レバー&ワイヤ等の作動状態	作動はスムーズか、油切れを起こしていないか		○	○	
変速	変速レバー	①操作具合	作動に異常はないか	○	○	○	
		②弛み、ガタ	レバー取付位置に	○	○	○	
走行装置	タイヤ(ホイール)	①空気圧及び溝の深さ	基準値内であること	○	○	○	
		②亀裂、損傷及び偏摩耗	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか	○	○	○	
		③金属片、石その他の異物の噛み込み	異物の噛み込みはないか	○	○	○	
		④ボルト・ナットの弛み、脱落	ボルト・ナットの緩み、脱落はないか	○	○	○	
		⑤ガタ、異音	取付部に異音、ガタはないか		○	○	
安全	表示マーク	①損傷	警告ラベル及び銘板が損傷なく取り付けられているか		○	○	
	反射板	①損傷、脱落	損傷及び脱落はないか		○	○	

※ *印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

《自己診断表》

次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参考にして適切な処置をして下さい。

現象	原因	処置
刈草がうまく放出しない	草が湿っている	草が乾燥してから作業する
	草が長い	刈高さを高くして二度刈する
	刈高さが低い	刈高さを高くする
	エンジン回転が低い	最高回転にする
	作業速度が速い	作業速度を落とす
刈残しが出る	作業速度が速い	作業速度を落とす
	エンジン回転が低い	最高回転にする
	ナイフの摩耗、破損	新しいナイフと交換する
	ナイフカバー内への草屑の堆積	ナイフカバー内側を清掃する
	草が長い	刈高さを高くして二度刈する
	追刈りをしている	向かい刈りをする
土削りを発生する	刈高さが低い	刈高さを高くする
	旋回速度が速い	旋回時の速度を落とす
	地形にうねりがある	刈取りパターン(刈取り方向)を変える
	地形の起伏(凸凹)が多い	刈高さを高くする
	ナイフステーの曲がり	新しいナイフステーと交換する
ナイフがスリップする	ベルトの張力が低い	ベルトの張力を調整する
	ナイフカバー内へに異物の詰まり	ナイフカバー内を清掃する
	プーリへの草の堆積	プーリをきれいに清掃する
	ベルトの摩耗	新しいベルトと交換する
ナイフが5秒以内に停止しない	ナイフブレーキシューの摩耗	ナイフブレーキを交換する
	ナイフブレーキの調整不良	ナイフブレーキを調整する
振動が大きい	ナイフのバランスが悪い	ナイフを修正する(両ナイフ)
	ナイフの損傷	新しいナイフと交換するか、修正する
	ナイフネックガードへの草の堆積	ナイフネックガード内部を清掃する
	ナイフ軸が曲がっている	ナイフ軸を交換する。
	ナイフベルトの破損	新しいベルトと交換する
	ナイフステーの曲がり	ナイフステーを交換する
	新旧のナイフが混在している	新旧のナイフは混在させない
刈取り作業負荷が大きい	エンジン回転が低い	エンジン回転を上げる
	作業速度が速い	作業速度を落とす
	ナイフの回転軸への草の巻き付き	ナイフ軸をきれいに清掃する
	草が長い	刈高さを高くして、二度刈りをする
タイヤがスリップして直進しない	デフロックが「切」位置である	デフロックを「入」位置にする
	圃場が軟弱である	圃場が乾くまで作業を中断する
変速レバーを「N」位置にしても停止しない	変速レバーの「N」位置がズれている	変速レバーのターンバックルで中立「N」位置を調整する
登坂力が低下したようだ	走行ベルトの張力不足	走行ベルトを張るか交換する
	HSTオイルの不足又はエアの混入	オイルの補充又はエア抜き(下記参照)
チェンジペダルを操作しても本機が動かない	HSTオイルの不足	HSTオイルの補充
	HSTポンプにエアがかんでいる	エア抜きを行う
	駐車ブレーキが解除されていない	駐車ブレーキを解除する
	副変速レバーが「N」位置である	副変速レバーを低速か高速側に入れる
駐車ブレーキの利きが悪い	ブレーキシューの摩耗	ブレーキシューの交換
	ブレーキドラム内へのオイルの侵入	脱脂とオイルシールの交換
	ブレーキドラム内への水の浸入	ブレーキを入・切しドラム内を乾かす
	タイヤの摩耗	タイヤを交換する。

※わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談下さい。

《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をして下さい。

現象	原因	処置
スタータが回らない	駐車ブレーキペダルを踏み込んでない	ペダルを踏み込むかストッパでロックする
	刈高調整レバーが「移動」位置でない	刈高調整レバーは始動時「移動」位置にする
	シートに座っていない	シートに座って始動する
	セーフティスイッチの調整不良	スイッチの作動範囲 2~8mm に調整する
	バッテリーの過放電	普通電流で充電する
	バッテリーコードの外れ	コードをつなぐ
	カプラ配線の外れ	接続する
	ヒューズ切れ	ヒューズを交換する
始動困難な場合	スロットルレバーが「低速」位置でない	スロットルレバーを「低速」位置にする。
	チョークレバーが「始動」位置でない	エンジン冷却時チョークレバーを引き閉める。
	燃料が流れない	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する
		燃料コックのコック向きを「開」(ON)にする。
	インライン燃料フィルタのつまり	インライン燃料フィルタを交換する
	燃料送油系統に空気や水が混入している	異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。	気温によってオイルを使い分けする
	点火コイル、又はユニットの不良	*点火コイル、又はユニットを交換する
	点火プラグの不調	点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する
		新しい点火プラグと交換する
	バッテリーが放電気味である	バッテリーは未使用期間中は取り外し、満充電状態で室内に保管し、使用時に取付ける
	燃料の質が悪い	新しい良質の燃料と交換する
燃料不足	燃料を補給する	
出力不足の場合	燃料不足	燃料を補給する
	エアクリーナの目詰まり	エレメントを清掃する
	燃料の質が悪い	良質の燃料と交換する
	チョークが完全に開いていない	チョークレバーを完全に押し戻し「開」位置にする
	冷却系統が目詰まりをしている	回転スクリーン周辺を清掃する
突然停止した場合	燃料不足	燃料を補給する
	燃料コックが閉じている	燃料コックを開く
排気色が異常に黒い場合	燃料の質が悪い	良質の燃料と交換する
	エアクリーナの目詰まり	エレメントを清掃する
マフラから黒煙が出、出力が低下した	エアクリーナエレメントの目詰まり	エレメントを清掃する
	チョークが完全に開いていない	チョークレバーを完全に押し戻し「開」位置にする
マフラから青白煙が出た場合	エンジンオイルの入れすぎ	正規のオイル量にする
	シリンダ・ピストンリングの摩耗	*リングを交換する
エンジン回転が安定しない	チョークが完全に開いていない	チョークレバーを完全に押し戻し「開」位置にする
	燃料の質が悪い	良質の燃料と交換する
しばらくするとエンストする	点火コイルの不良	*点火コイルを交換する
	燃料フィルタの目詰まり	燃料フィルタを清掃する
排気に刺激臭がある	燃料の質が悪い	良質の燃料と交換する

※ *印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。




※わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。

《バッテリーの故障とその処理方法》

現象	原因	処置	防止法
スタータが回らない	充電を怠った	普通充電で、長時間充電する	バッテリーは無理して使わず、充電は早めに行う。
	ターミナルの接触不良	ターミナルをよく洗い、締め付ける	ターミナルは清潔にし、しっかりと締め付けてグリスを塗る
	バッテリーの寿命	バッテリーの交換	
スタータが勢いよく回らない。液口から見ると、極板上部が白い	充電が不完全	普通充電で、長時間充電する	使用前に充電を完全に行う
	電解液の不足	蒸留水を補充して充電する	液量の点検を定期的に行う
	バッテリーの酷使(過放電)となった	普通充電で、長時間充電する	バッテリーは無理して使わず、充電は早めに行う
充電しても充電できない	バッテリーの寿命	バッテリーの交換	
	ヒューズ切れ	ヒューズの交換	
端子の腐食がひどく、端子が熱くなる	ターミナルの接触不良	ターミナル部をよく洗い、締め付ける	ターミナル部は清潔にし、しっかりと締め付けてグリスを塗る
	ターミナル部の汚れ		
電解液の減りが早い	電槽にひび割れがある	バッテリーの交換	取付けをしっかりとする
	充電電圧が高すぎる	充電器の交換	
	バッテリーの寿命	バッテリーの交換	

※わからない場合には、製品お買い上げの販売店にご相談ください。

《バッテリーの故障とその処理方法》

危険の程度	事故の種類	処置方法
 危険	目に入った場合	直ちに多量の清水で洗眼した後、速やかに医師(眼科医)の治療を受けて下さい。
	口に入るか飲み込んだ場合	直ちに飲料水でうがいを繰り返した後、多量の清水を飲み、速やかに医師の治療を受けて下さい。
 警告	皮膚、衣服に付着した場合	直ちに多量の水で洗い流した後、更に石鹸で十分に洗って下さい。
 注意	車両に付着した場合	直ちにウエス等でふき取った後、水で洗い流して下さい。
	床や地面にこぼした場合	重炭酸ソーダ(重曹)等を泡が出なくなるまで散布した後、多量の水で洗い流して下さい。

《バッテリー充電時間のめやす》

急速充電したバッテリーは逆に急速に放電します。バッテリーは下記充電時間を守り、急速充電は緊急時に限って下さい。(充電電流3A~4A)

比重値(20℃)	充電時間(時)
1,240以上	4~5
1,200~1,240	6~7
1,160~1,200	8~9
1,120~1,160	10~12
1,120以下	15以上

比重(20℃)	放電電気量(%)	残存電気量(%)
1,280(1,260)	0	100
1,230(1,210)	25	75
1,180(1,160)	50	50
1,130(1,110)	75	25
1,080(1,060)	100	0

※注意事項

()内は完全充電状態で1,260電解液比重のもの

充電中の液温が45℃以上になるような時は、電流値を半減するか又は一旦充電を休止するなど、液温を下げてから充電を行って下さい。

OR E C

本社. 広川工場 〒834-0195 福岡県八女郡広川町大字日吉548-22
TEL(0943)32-5057
FAX(0943)32-3518

仙台営業所 〒983-0821 宮城県仙台市宮城野区岩切2丁目1-15
TEL(022)255-3009
FAX(022)255-3039

関東営業所 〒346-0106 埼玉県久喜市菖蒲町菖蒲2800
TEL(0480)87-3008
FAX(0480)87-3009

長野SC 〒387-0012 長野県千曲市桜堂字西沖335-1
TEL(026)273-5686
FAX(026)273-5687

名古屋営業所 〒491-0833 愛知県一宮市平島1-1-16
TEL(0586)77-7002
FAX(0586)77-7003

岡山営業所 〒700-0951 岡山県岡山市北区田中123-104
TEL(086)245-2568
FAX(086)245-2569

福岡営業所 〒834-0195 福岡県八女郡広川町大字日吉548-22
TEL(0943)32-4778
FAX(0943)32-3518

鹿児島営業所 〒899-6404 鹿児島県霧島市溝辺町麓843-6
TEL(0995)58-3991
FAX(0995)58-2491